

令和2年度「男女共同参画に関するアンケート」調査集計結果

1 調査目的

男女共同参画に関する県民の意見と実態を調査し、「山梨県男女共同参画計画」の策定や男女共同参画に関する施策を進めるための基礎資料とする。

2 アンケート調査の実施期間

令和2年9月

3 調査方法

(1) 郵送配布・郵送回収

(2) インターネット(電子メール連絡・専用ホームページから回答送信)

4 調査対象者(県政モニター)

(1) 一般モニター(郵送によるアンケート調査) 224 名

(2) インターネットモニター(専用ホームページによるアンケート調査) 189 名

合計 413 名

5 回答数(回答率)

(1) 一般モニター(郵送によるアンケート調査) 193 名(86.1%)

(2) インターネットモニター(専用ホームページによるアンケート調査) 140 名(74.0%)

合計 333 名(80.6%)

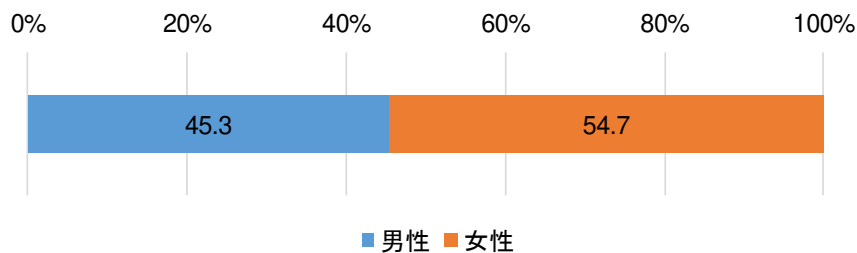
6 その他

(1) 比率は全て百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、回答の合計が100%にならないことがある。

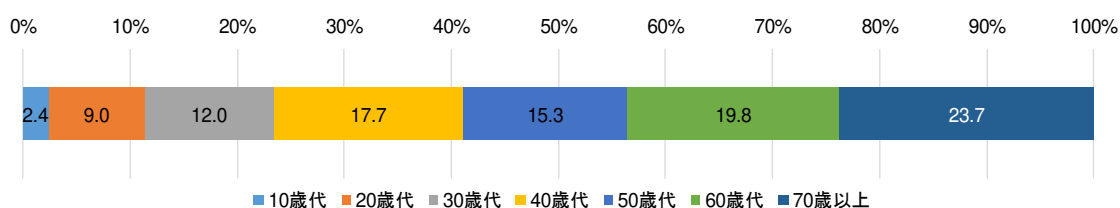
(2) 複数回答が可能な設問については、回答の合計は100%を上回ることがある。

(3) 複数回答が可能な設問については、設問文の末尾にその旨を記載している。

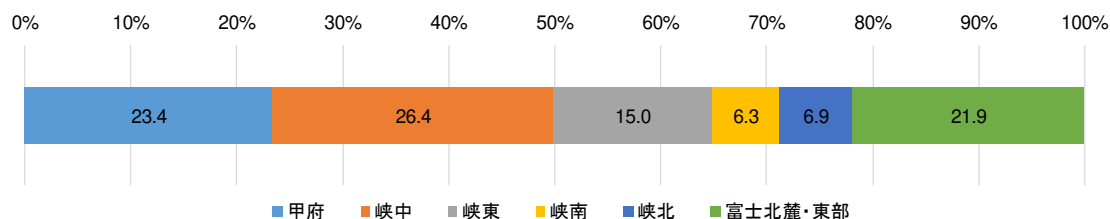
F1 あなたの性別をお答えください。(333人)



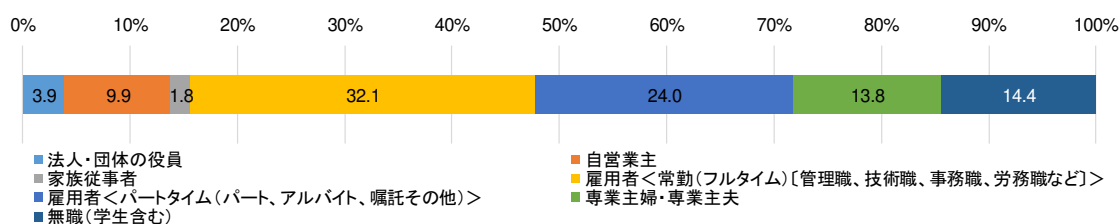
F2 あなたの年齢(令和2年9月1日現在の満年齢)はいくつですか。(333人)



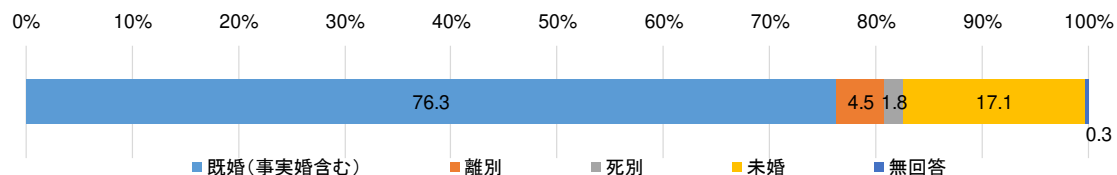
F3 あなたが現在お住まいの地域はどこですか。(333人)



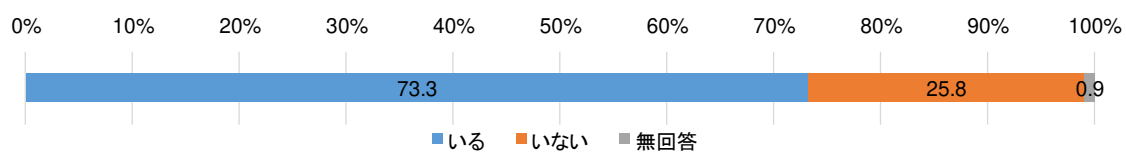
F4 あなたの職業は何ですか。(主なもの1つ)(333人)



F5 あなたは結婚していますか。(333人)

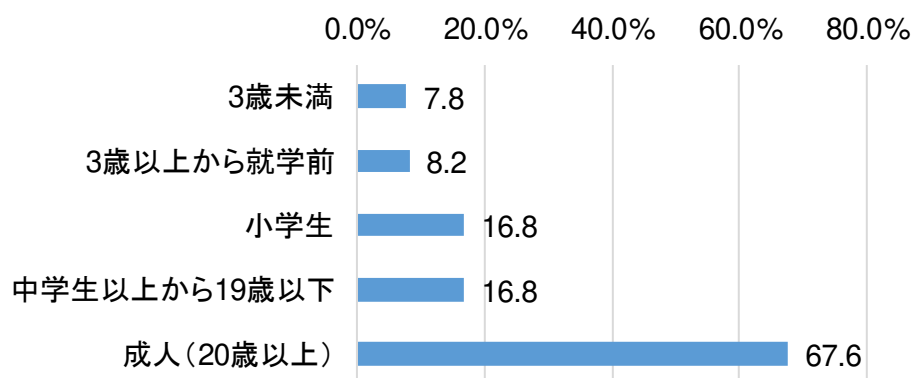


F6 あなたにお子さんはいますか。(333人)



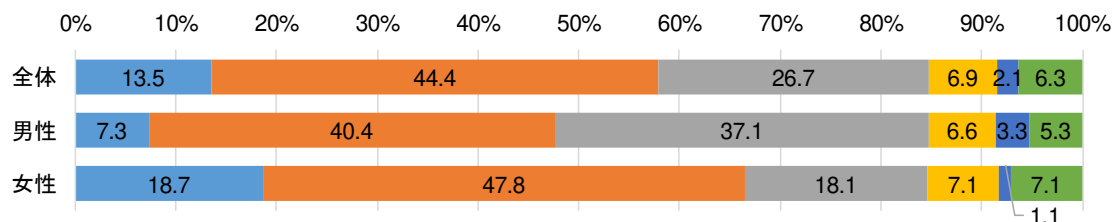
【F6で「いる」と回答した方のみ(244人)】

F7 あなたのお子さんの年齢層はどれですか。(複数回答可)

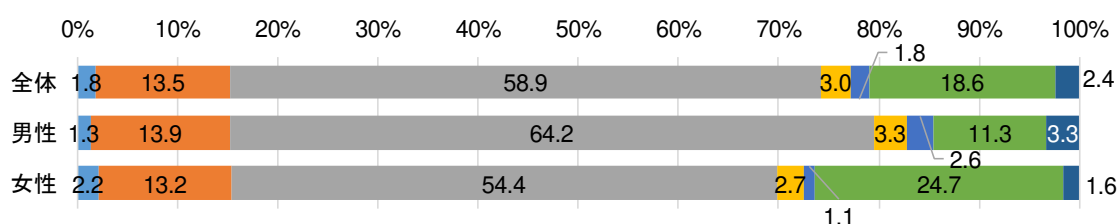


問1 あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(男性 151 人、女性 182 人)

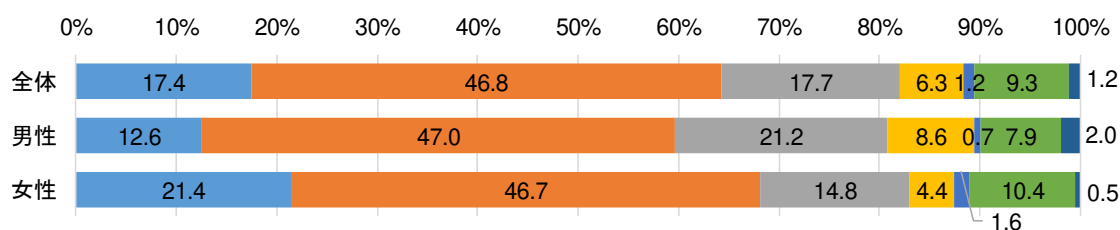
A 家庭生活において



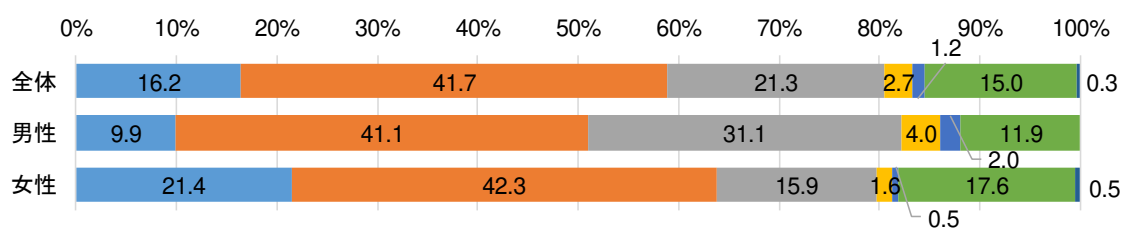
B 学校生活において



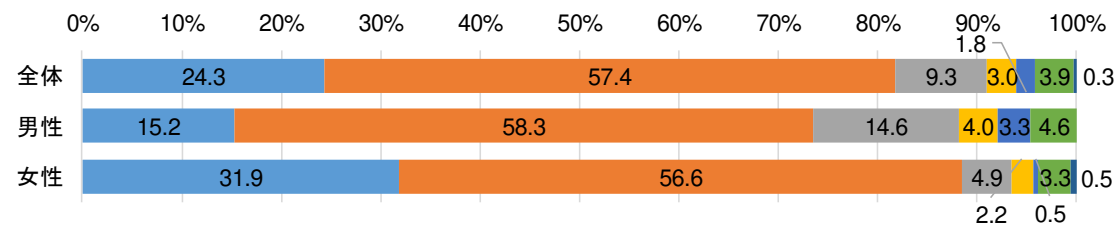
C 職場内において



D 地域において



E 社会全体において

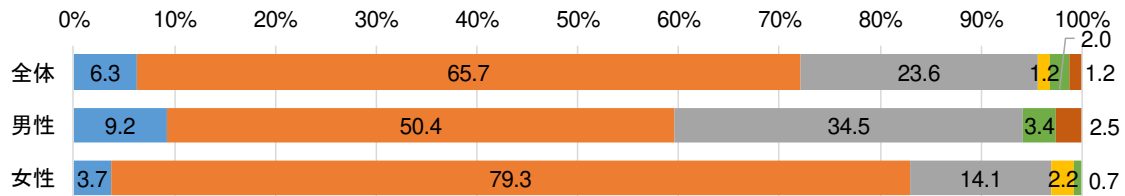


■ 男性優遇
 ■ どちらかという男性優遇
 ■ 平等
■ どちらかという女性優遇
 ■ 女性優遇
 ■ わからない
■ 無回答

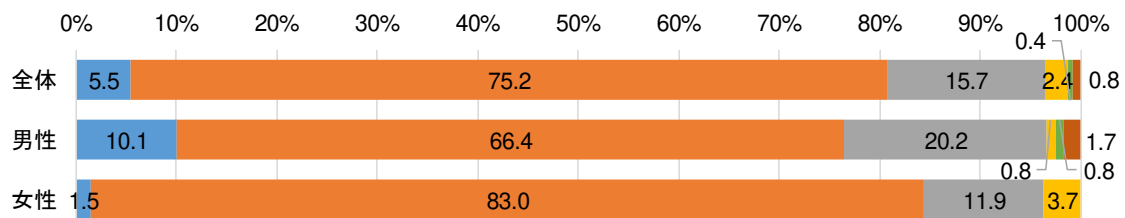
【F5で「既婚(事実婚を含む)」と答えた方のみ(254人)】

問2 あなたの家庭では、次のような家事等(A~G)や最終決定(H~J)を主にどなたが担当しているでしょうか。(男性119人、女性135人)

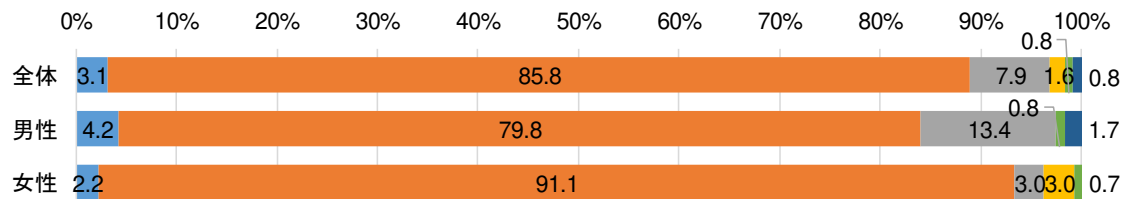
A 掃除



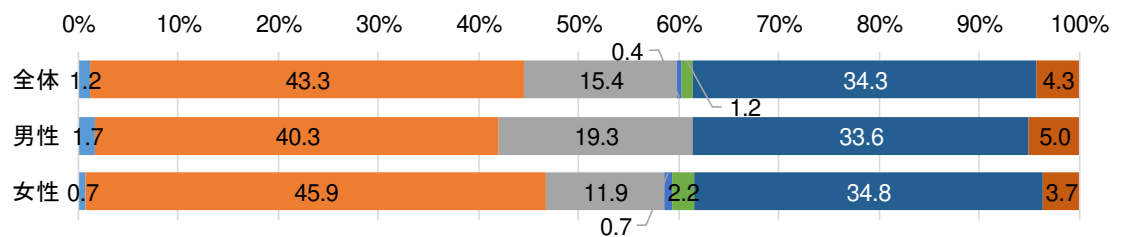
B 洗濯



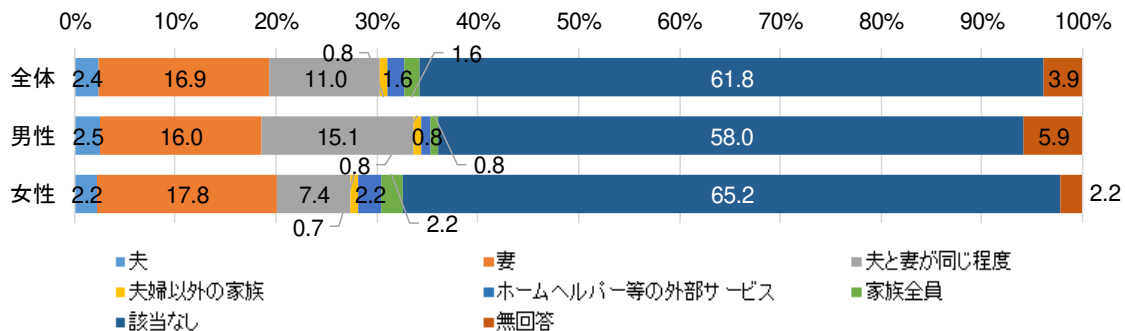
C 食事のしたく



D 育児

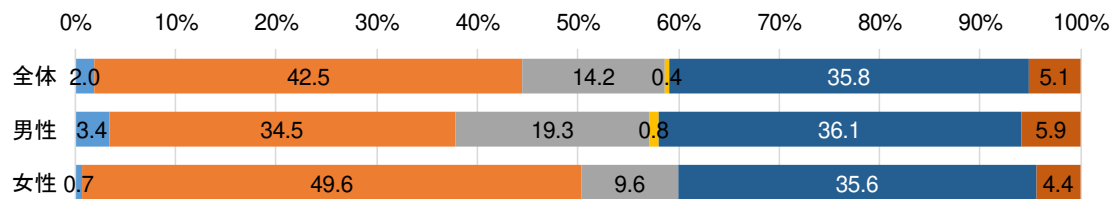


E 高齢者などの介護

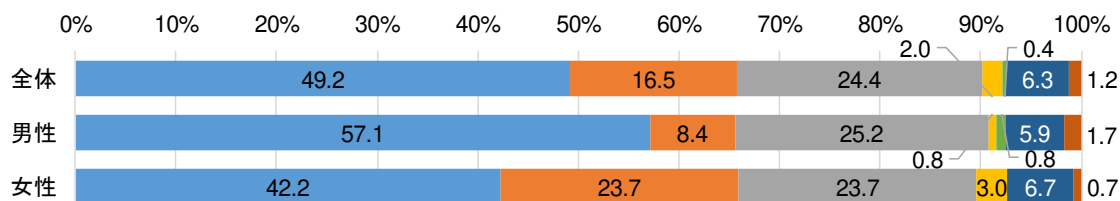


- 夫
- 妻
- 夫婦以外
- 該当なし
- ホームヘルパー等の外部サービス
- 夫と妻が同じ程度
- 家族全員
- 無回答

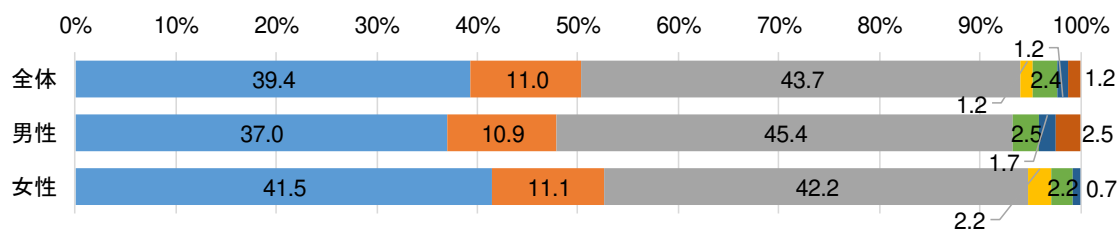
F 授業参観などの学校行事への参加



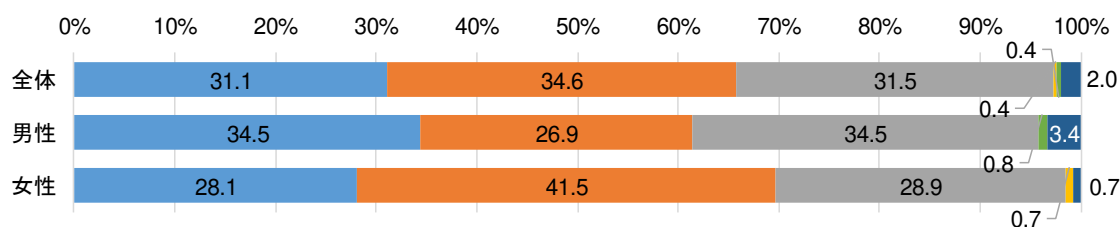
G 地域の行事(自治会等)などの活動



H 高額な商品(テレビ家具等)の購入



I 財産の管理



J 子どもの教育・就職



- 夫
- 妻
- 夫と妻が同じ程度
- 夫婦以外の家族
- ホームヘルパー等の外部サービス
- 家族全員
- 該当なし
- 無回答

※凡例の「該当なし」については D, E, F, G, H, J のみの選択肢。

問3 あなたとあなたの配偶者が、それぞれ1日のうちで家事、育児、介護に費やす平均時間はどのようであるか。(333人)

※家事とは・・・炊事、食事の後片付け、掃除、洗濯、衣類整理、家計簿の記入、庭の草取り、通勤・通学などの送迎、単身者が行う炊事・洗濯・掃除等、家族の身の回りの世話
(但し、小学校入学前の子どもの世話は育児に含まれる。)

※育児とは・・・乳幼児・小学校入学前の子どもの身の回りの世話、子どもの付き添い、子どもの勉強相手、子どもの遊び相手

※介護とは・・・日常生活における家族・親族の入浴・トイレ・移動・食事などの手助け、看病、一時的な病気で寝ている家族の介護・看護

【有効回答数】※回答者本人とその配偶者について回答するため、有効回答数はアンケート回答者数(男性151人、女性182人)を上回ることがあります。

家事平日 男性 207人分 女性 273人分

休日 男性 192人分 女性 251人分

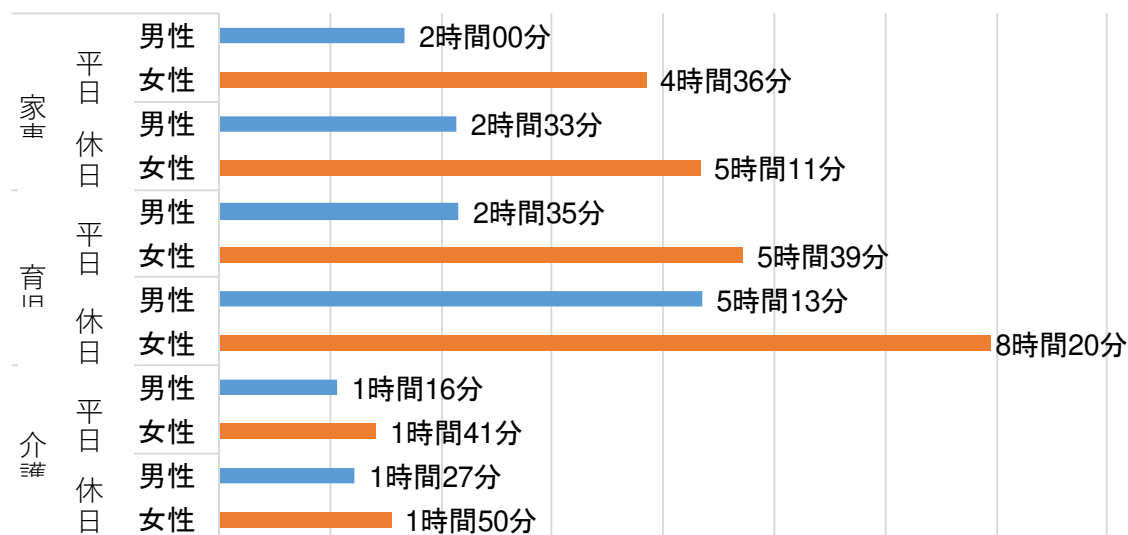
育児平日 男性 27人分 女性 32人分

休日 男性 30人分 女性 30人分

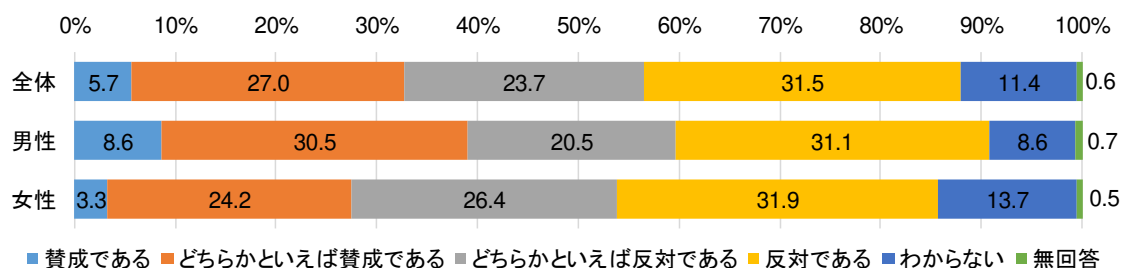
介護平日 男性 56人分 女性 62人分

休日 男性 54人分 女性 59人分

平均時間

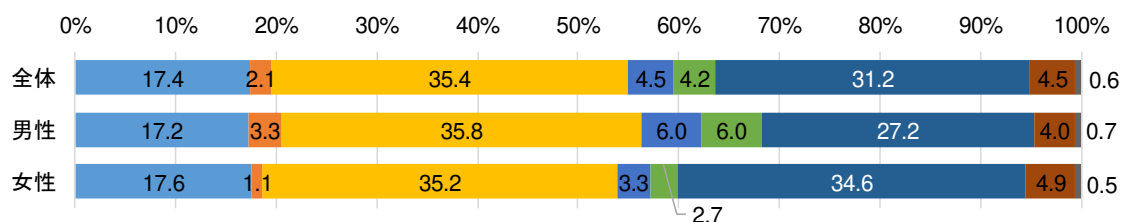


問4 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考えに賛成ですか、反対ですか。(男性 151 人、女性 182 人)

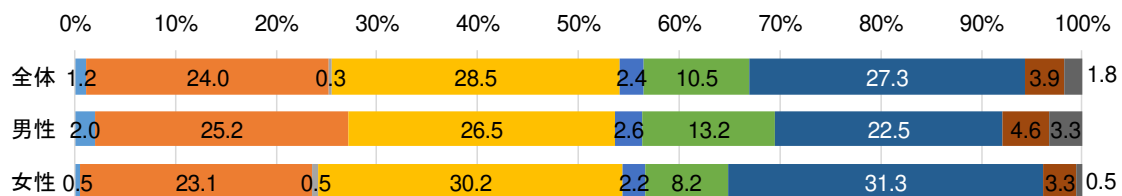


問5 仕事と生活の調和において、男性、女性のそれぞれについて望ましい形と思うものを選んでください。また、あなたの現在の状況に最も近いものを選んでください。(男性 151 人、女性 182 人)

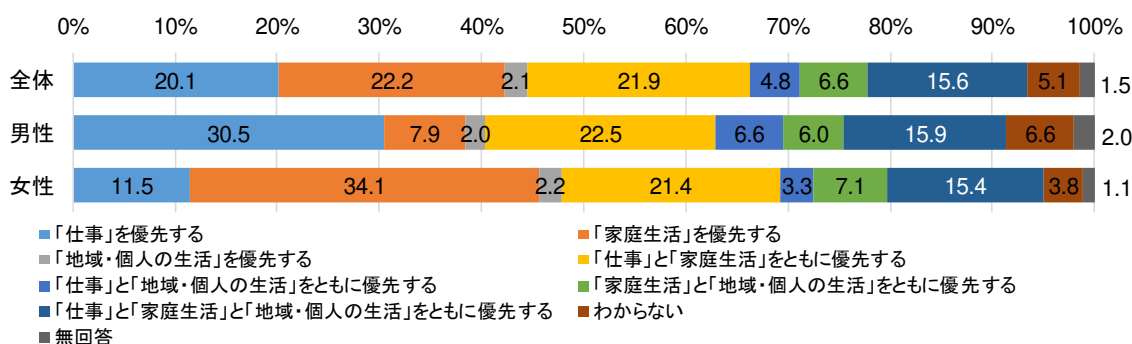
A 男性にとって望ましい形



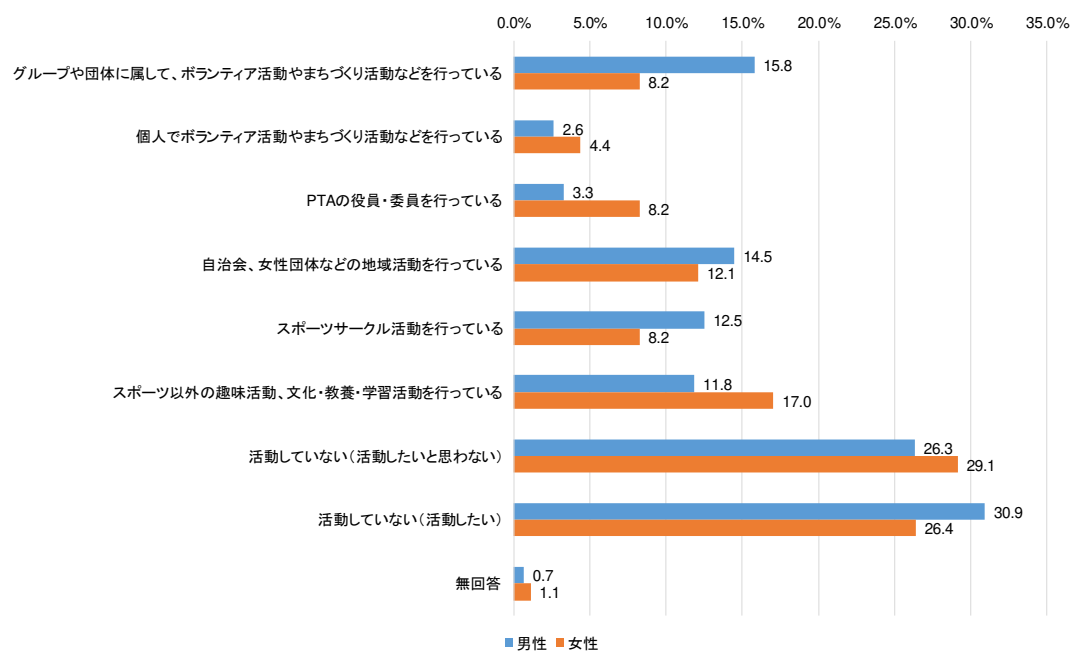
B 女性にとって望ましい形



C あなたの現在の状況

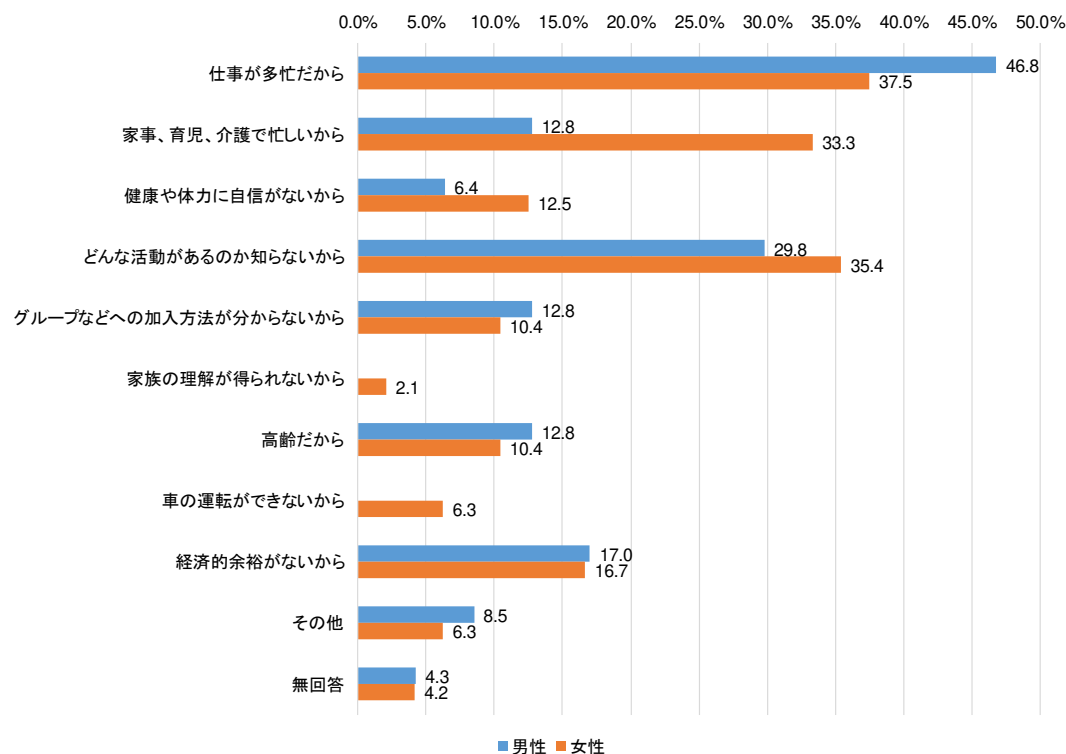


問6 あなたは現在、家庭の外で(仕事以外に)何か活動をしていますか。(複数回答可)(男性 151人、女性 182人)

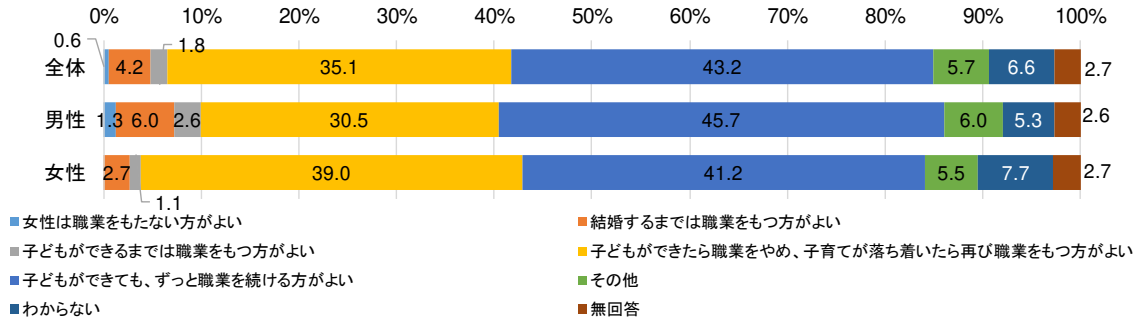


【問6で「活動していない(活動したい)」と答えた方のみ(95人)】

問6-1 活動したいのに活動していない理由は何ですか。(3つまで回答可)(男性 47人、女性 48人)

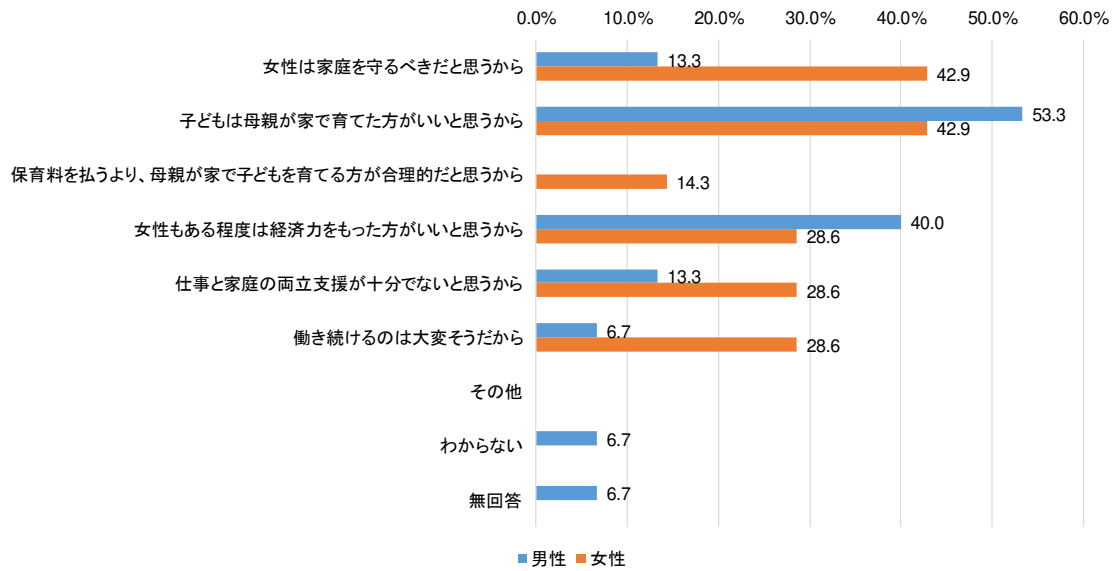


問7 女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。(男性 151 人、女性 182 人)



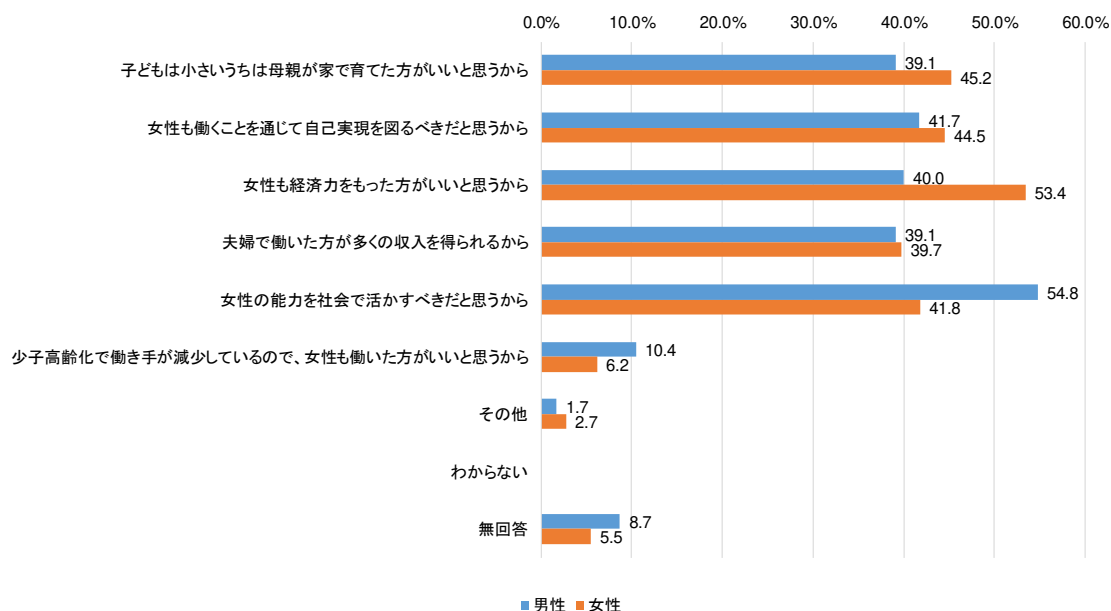
【問7で「女性は職業をもちたくない方がよい」、「結婚するまでは職業をもつ方がよい」、「子どもができるまでは職業を続ける方がよい」と答えた方のみ(22 人)】

問7-1 その理由は何ですか。(複数回答可)(男性 15 人、女性 7 人)



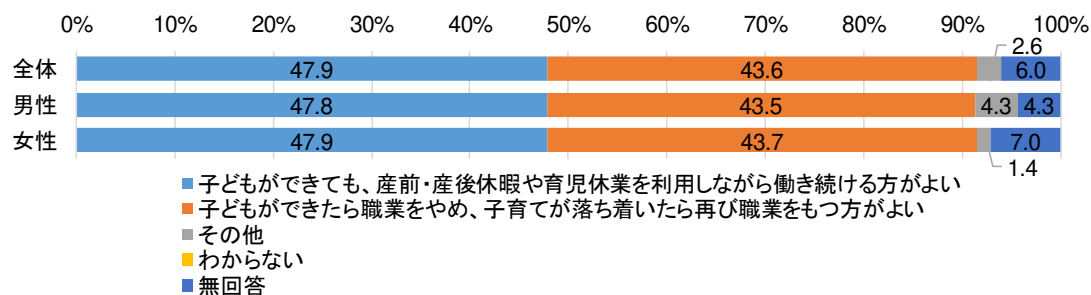
【問7で「子どもができたら職業をやめ、子育てが落ち着いたら再び職業をもつ方がよい」、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と答えた方のみ(261人)】

問7-2 その理由は何ですか。(複数回答可)(男性115人、女性146人)



【問7で「子どもができたら職業をやめ、子育てが落ち着いたら再び職業をもつ方がよい」と答えた方のみ(117人)】

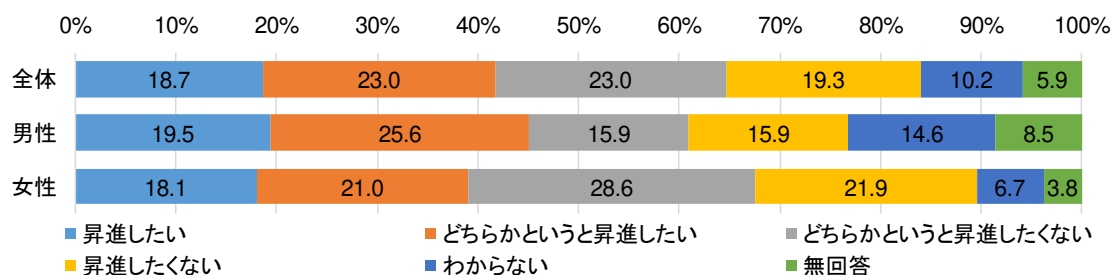
問7-3 もし現在よりも、仕事と子育ての両立がしやすい環境にあるとしたら、どのように考えますか。(男性46人、女性71人)



【F4で「雇用者<常勤(フルタイム)>〔管理職、技術職、事務職、労務職など〕>」、「雇用者<パートタイム〔パート、アルバイト、嘱託その他〕>」と答えた方のみ(187人)】

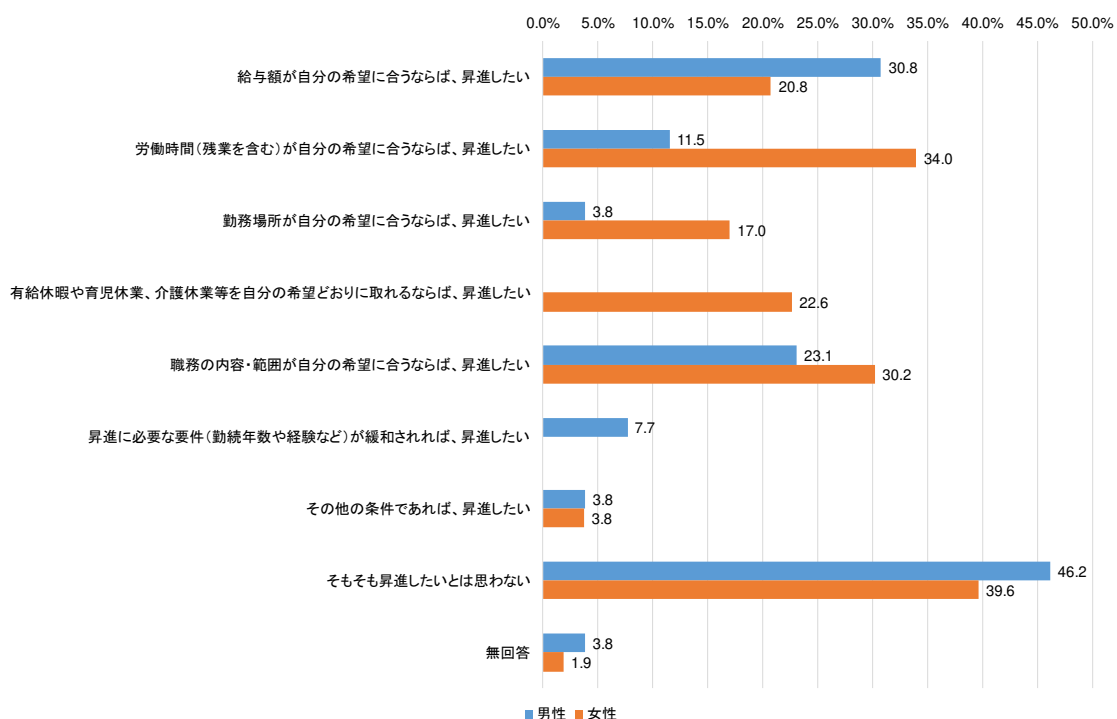
問8 あなたは、現在の職場で昇進の機会があれば昇進したいと思いますか。(男性 82人、女性 105人)

※昇進とは・・・ 現在より権限や責任が大きい仕事に就くことをいい、非正社員の方が正社員に登用されることを含みます。

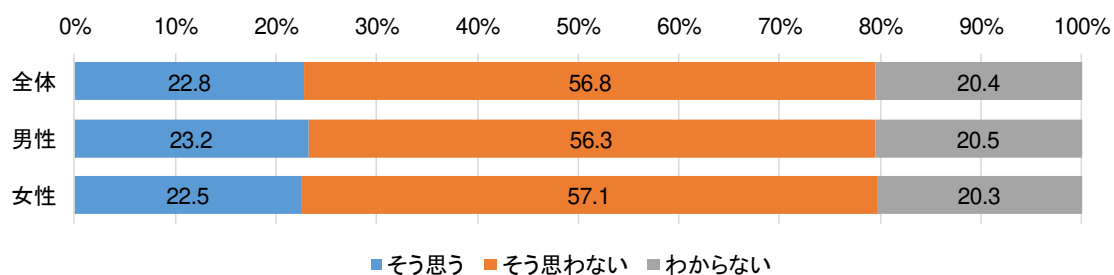


【問8で、「どちらかという昇進したくない」、「昇進したくない」と答えた方のみ(79人)】

問8-1 次の場合、あなたは現在の職場で昇進したいと思いますか。(3つまで回答可)(男性 26人、女性 53人)

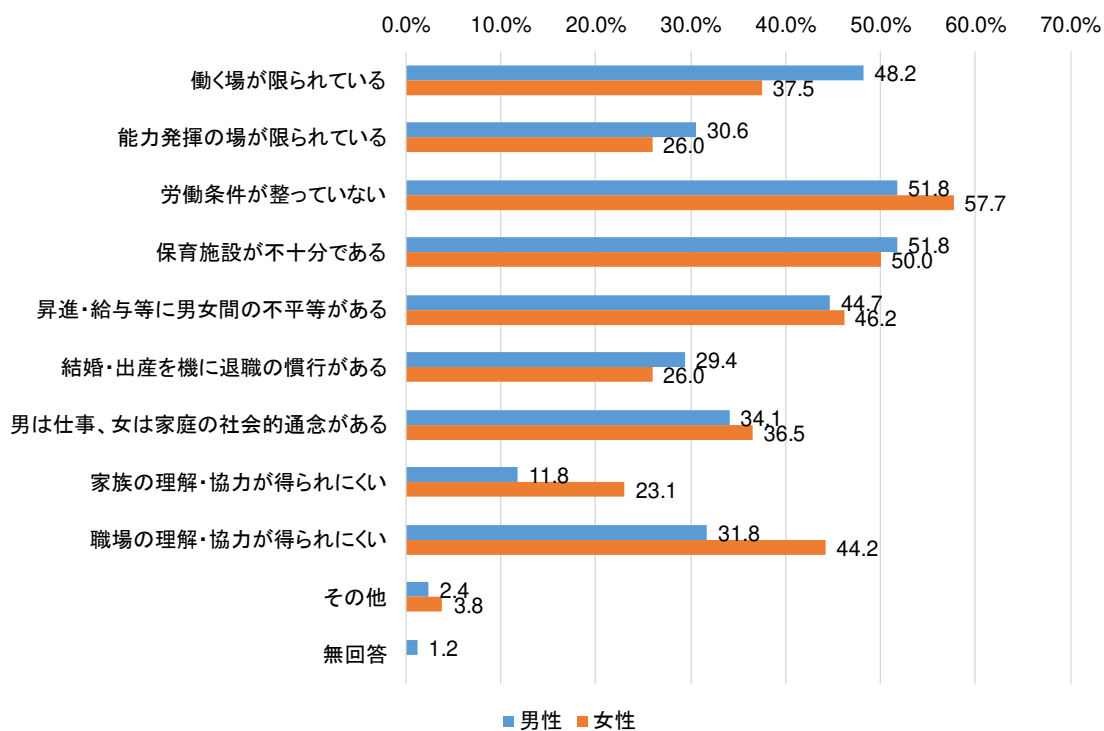


問9 あなたは現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。(男性 151 人、女性 182 人)

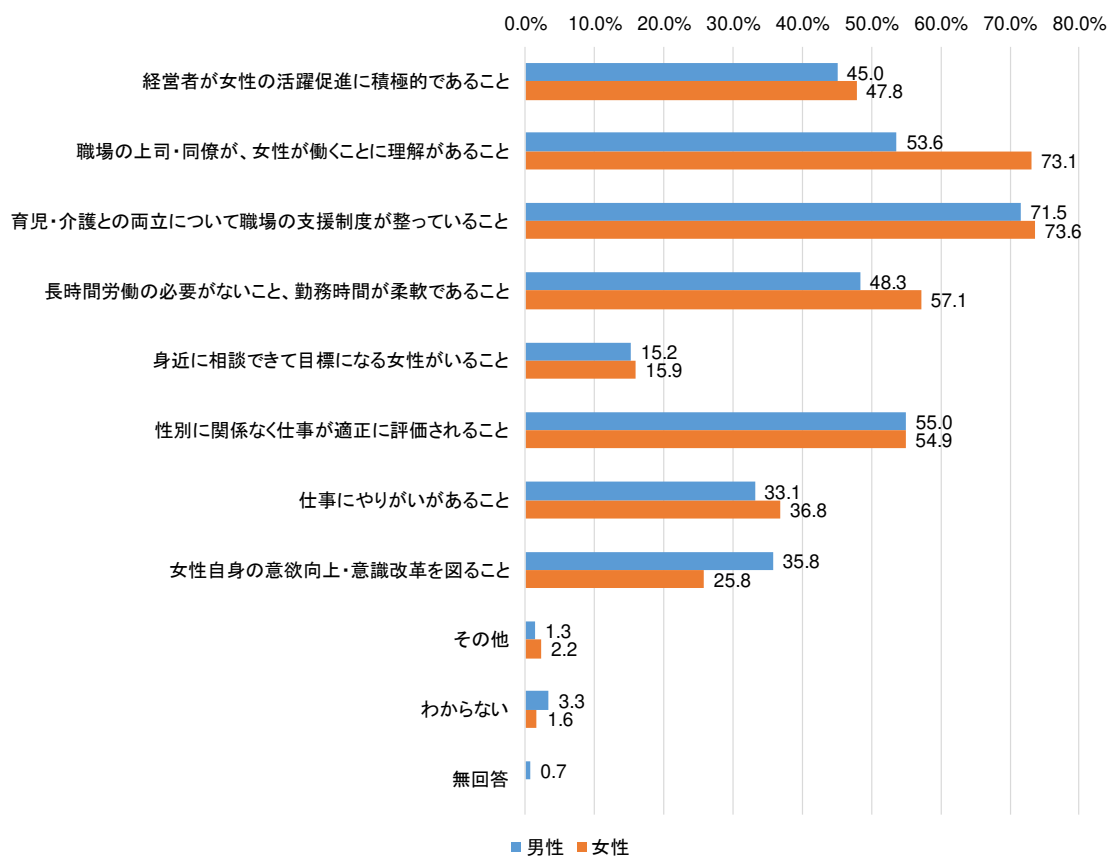


【問9で、「そう思わない」と答えた方のみ(189 人)】

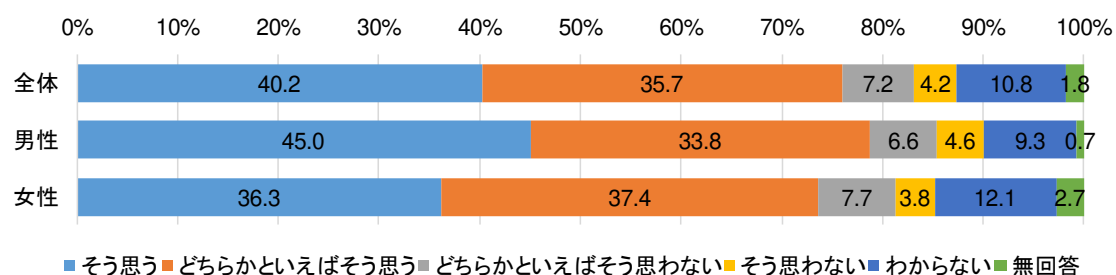
問9-1 その理由は何ですか。(複数回答可)(男性 85 人、女性 104 人)



問10 働く場において女性がさらに活躍するために何が必要だと思いますか。(複数回答可)(男性 151 人、女性 182 人)

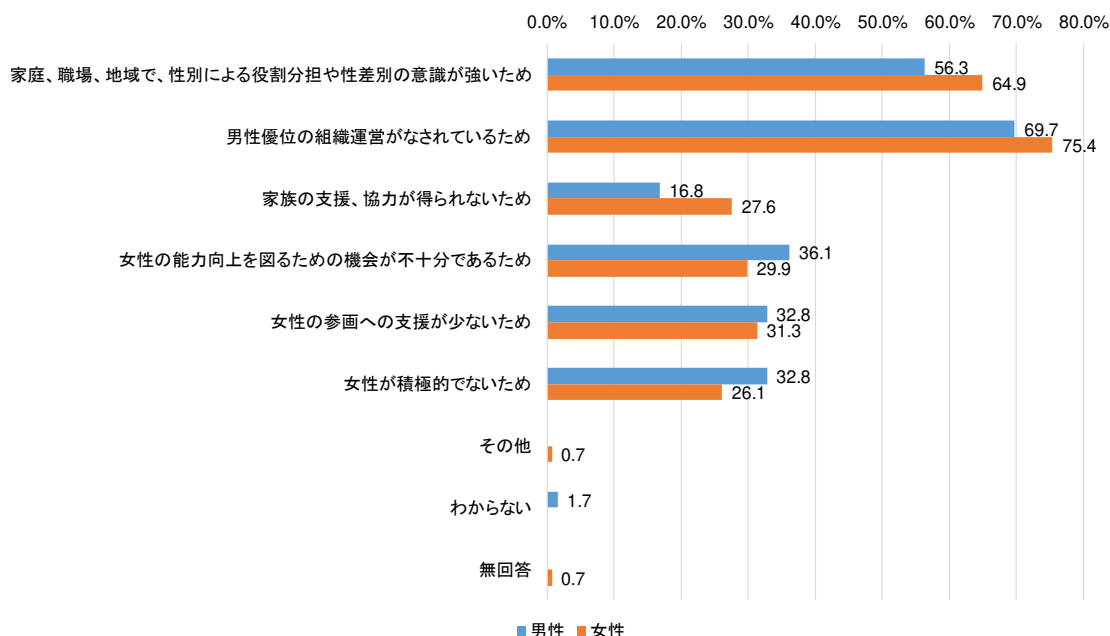


問11 あなたは、女性の意見がもっと反映されるように、自治体の首長(知事や市町村長)や議会議員、企業の管理者、自治会やPTAの会長など、政策の企画立案や方針決定の場に女性がもっと増える方がいいと思いますか。(男性 151 人、女性 182 人)



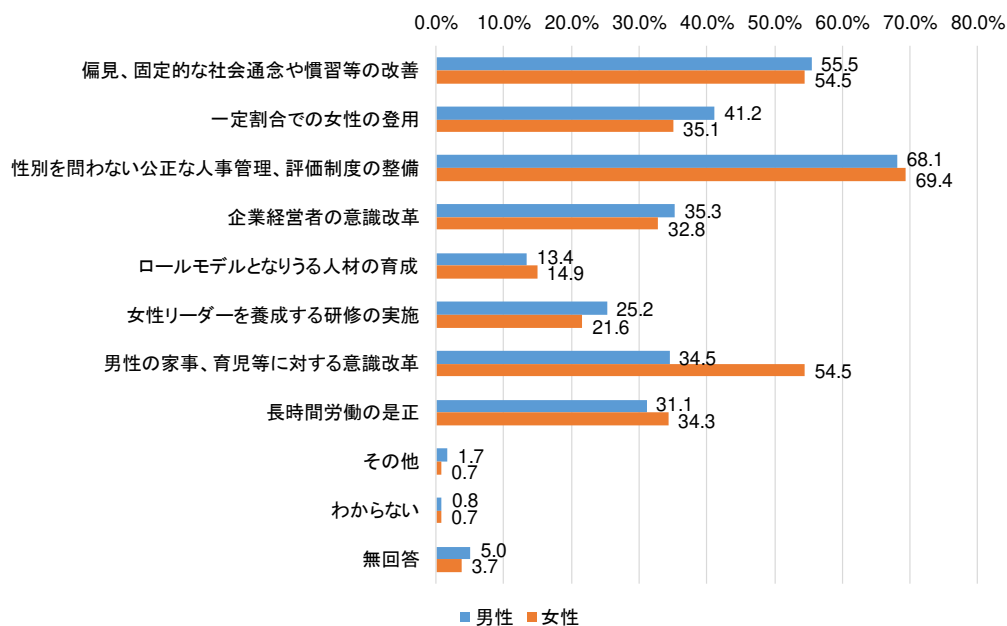
【問11で、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と答えた方のみ(253人)】

問11-1 政治や行政、職場などにおいて、企画立案や方針決定の場に女性の参画がまだまだ少ないといわれていますが、あなたはその原因は何だと思えますか。(複数回答可)(男性 119人、女性 134人)

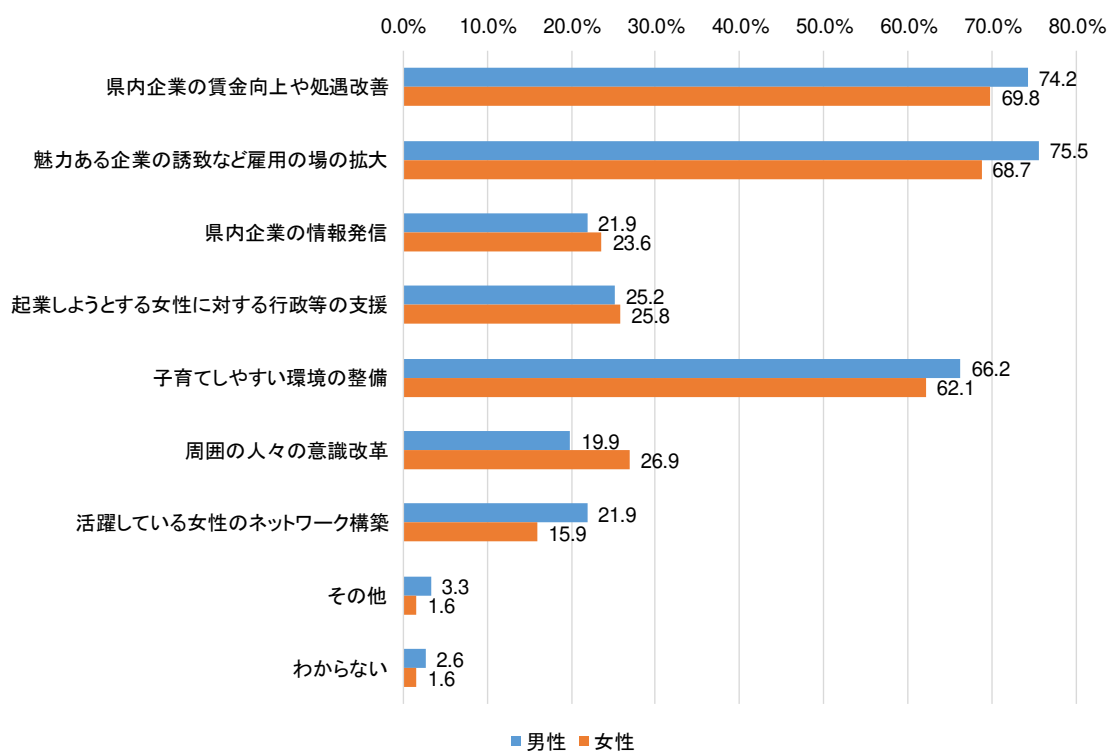


【問11で、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と答えた方のみ(253人)】

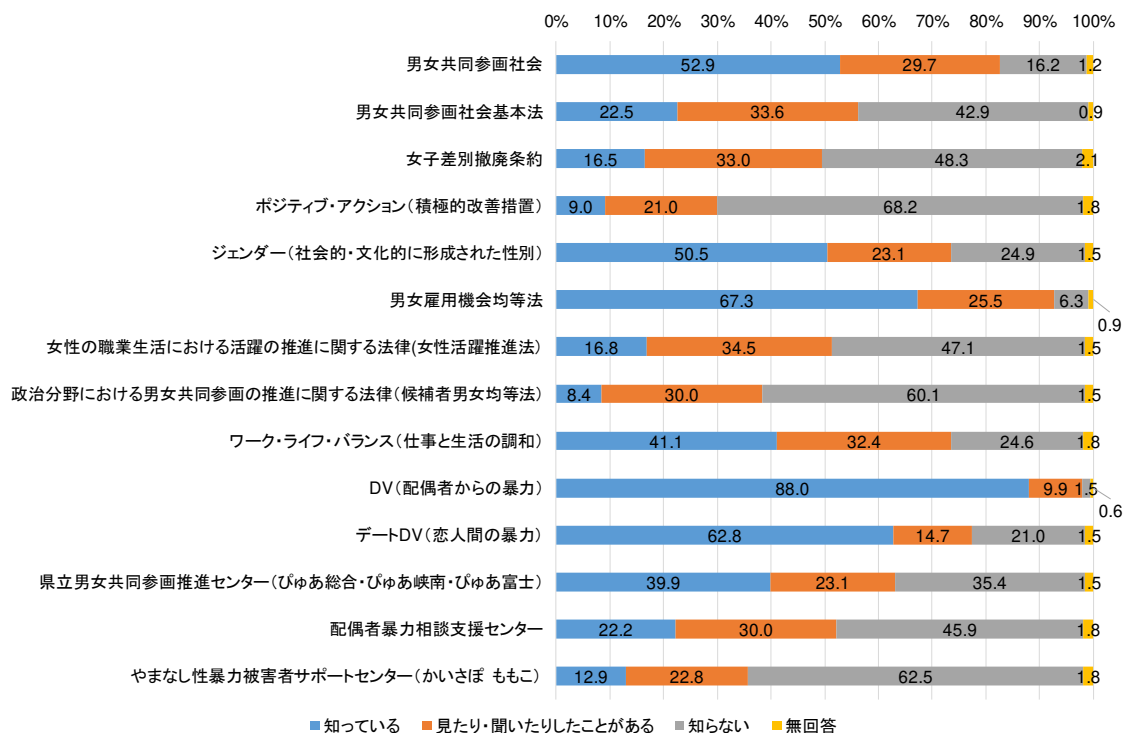
問11-2 政治や行政、職場において、企画立案や方針決定の場にもっと女性が参画するために何が必要だと思えますか。(複数回答可)(男性 119人、女性 134人)



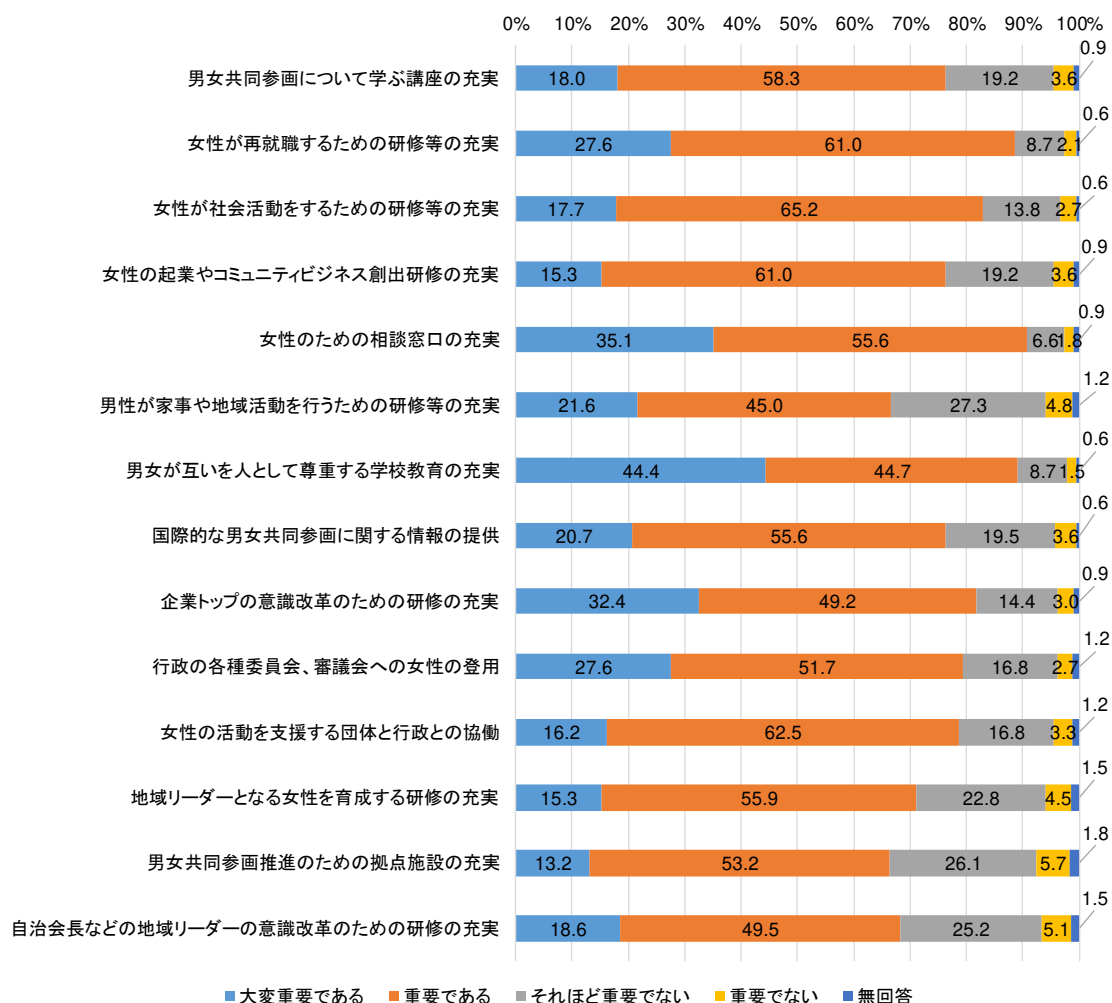
問12 県内の若年女性は多くが都市部に流出しています。県内に女性が定着し、活躍するために必要なことは何だと思えますか。(複数回答可)(男性 151 人、女性 182 人)



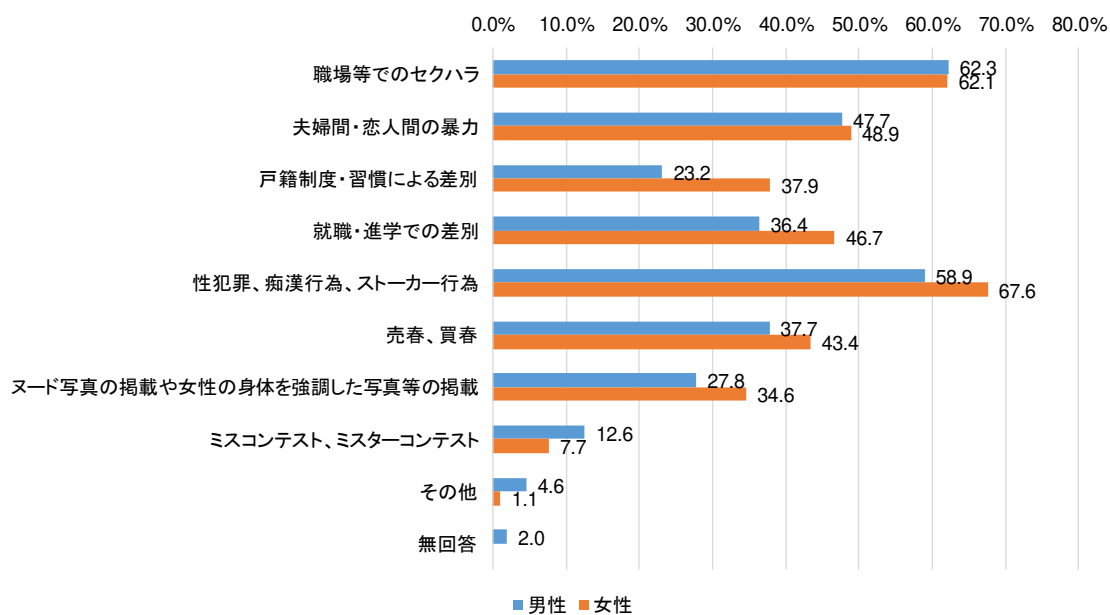
問13 これらの言葉を知っていますか。(333人)



問14 男女共同参画社会を実現するために、山梨県が行う施策の重要度についてあなたはどうお考えですか。(333人)

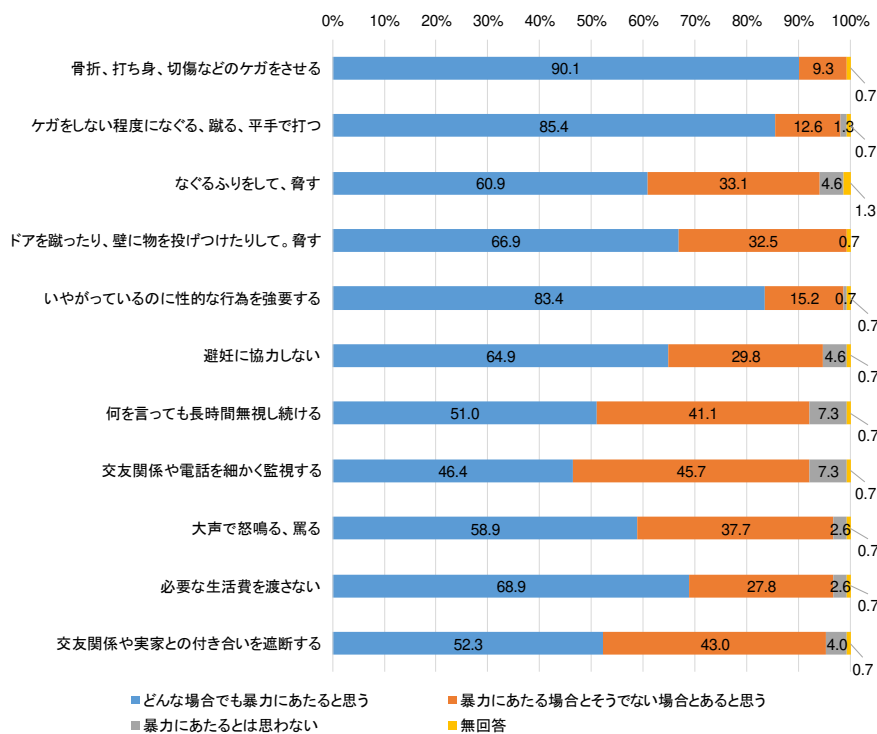


問15 あなたが、男女間において人権が尊重されていないと感じるのはどのようなことですか。
 (複数回答可)(男性 151人、女性 182人)

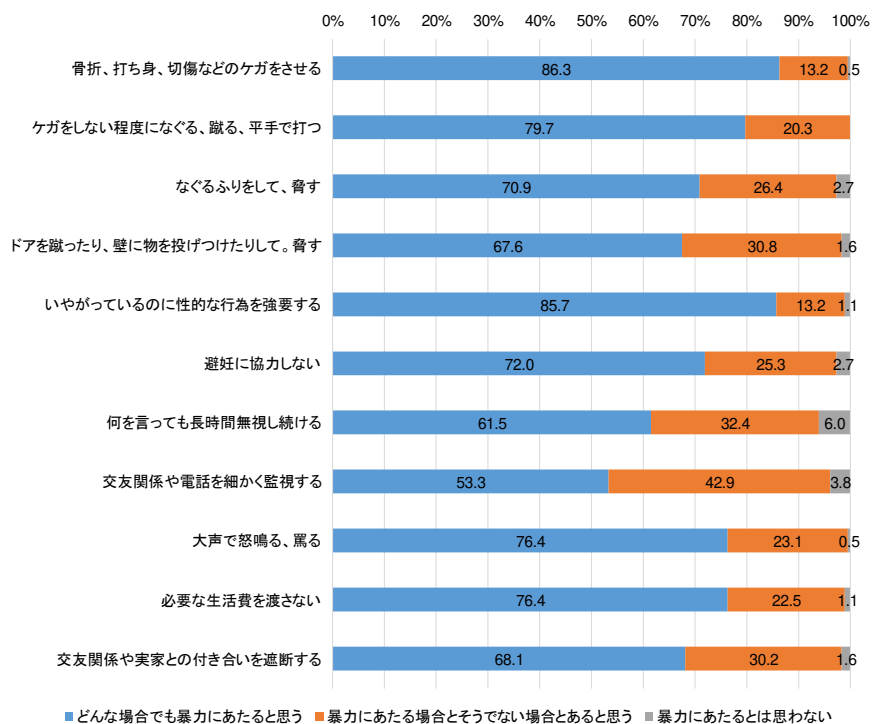


問16 あなたは、夫婦の間で次のようなことが行われた場合、それを暴力だと思いますか。(333人)

男性(151人)



女性(182人)

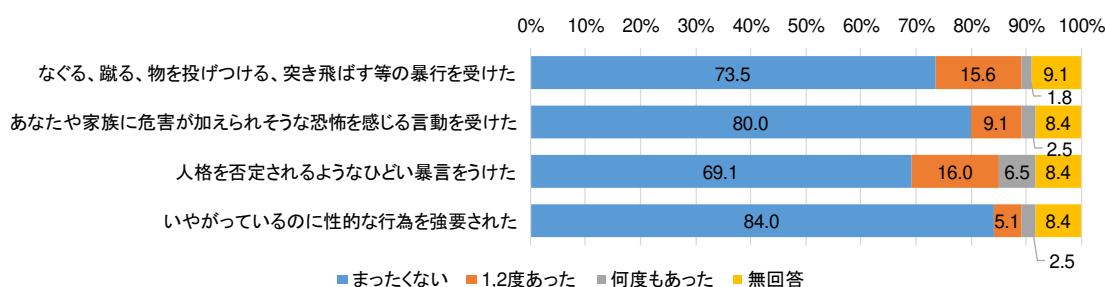


【F5で「既婚(事実婚を含む)」、「離別」、「死別」と答えた方のみ(275人)】

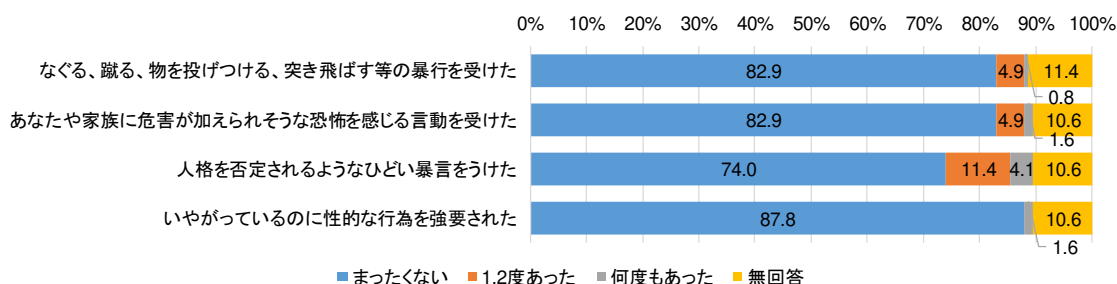
問17 あなたはこれまでにあなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。また、<これまで>に「1・2度あった」、「何度もあった」と答えた方は、それぞれの項目について、<この1年間>の状況もお答えください。

<これまで>

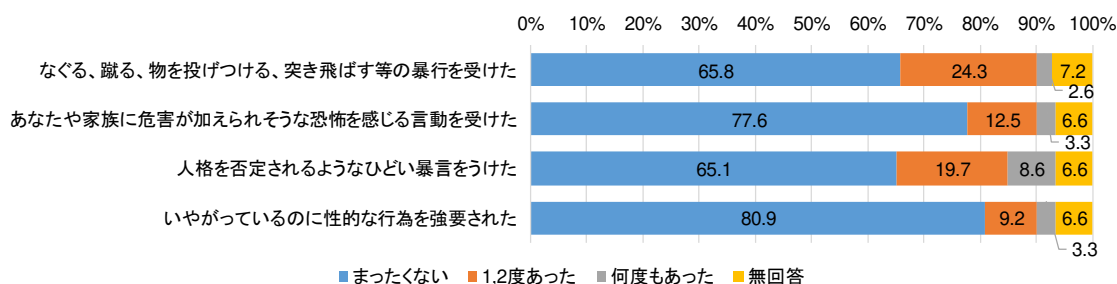
全体(275人)



男性(123人)



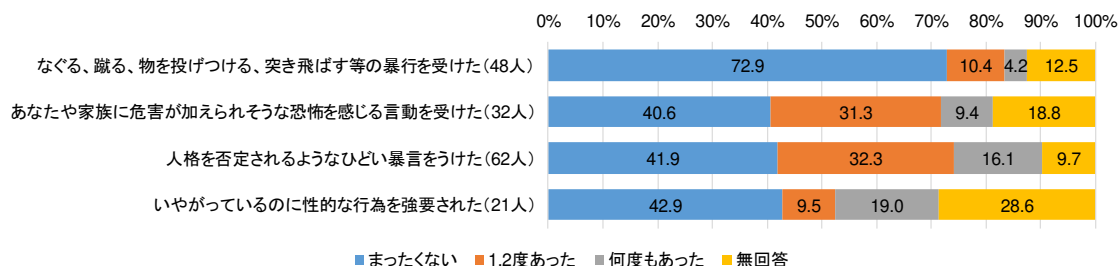
女性(152人)



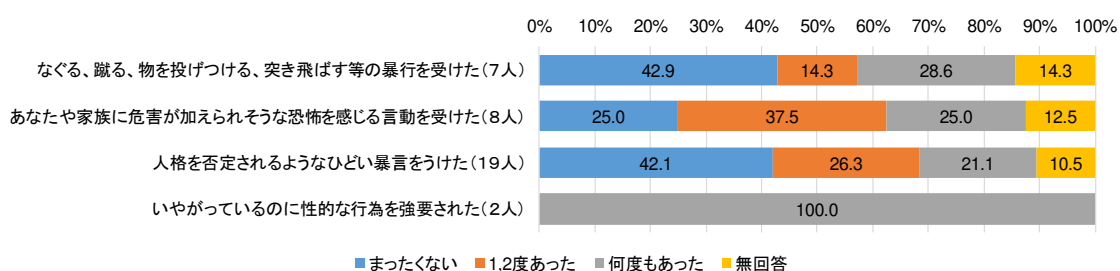
【<これまで>に「1・2度あった」、「何度もあった」と答えた方のみ(83人)】

<この1年間>

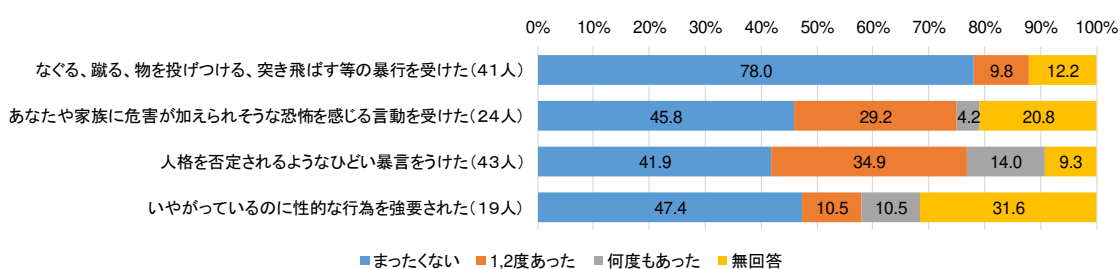
全体



男性

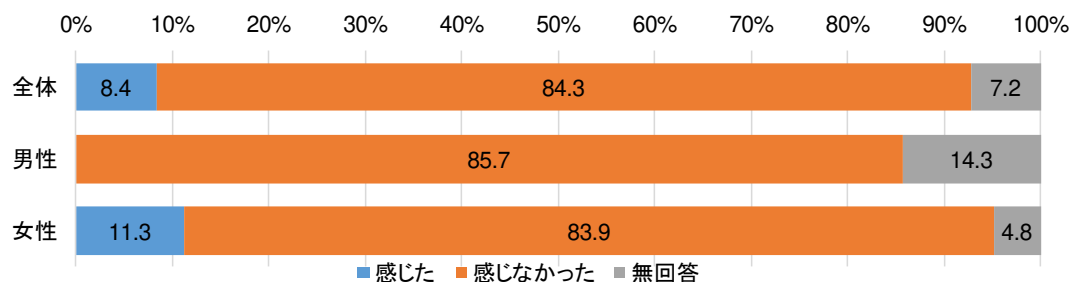


女性



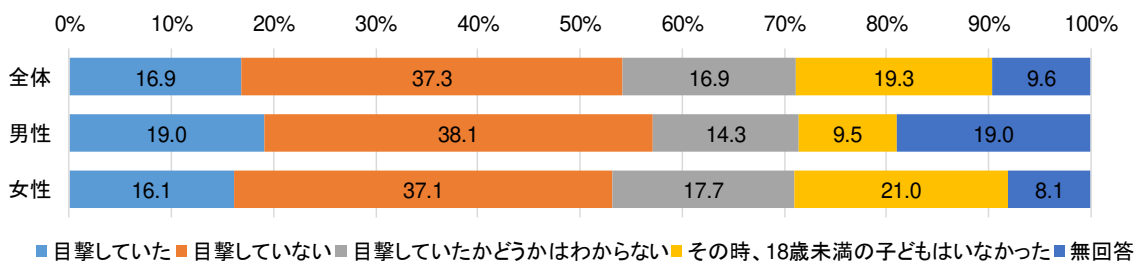
【問17で1つでも「1・2度あった」、「何度もあった」と答えた方のみ(83人)】

問17-1 あなたはこれまでに、配偶者から受けた行為によって、命の危険を感じたことがありますか。(男性 21人、女性 62人)



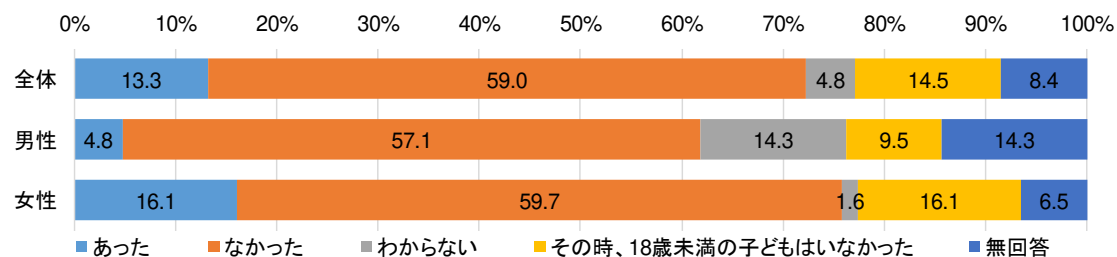
【問17で1つでも「1・2度あった」、「何度もあった」と答えた方のみ(83人)】

問17-2 あなたが、配偶者からの行為を受けたときに、あなたのお子さん(18歳未満)はそれを目撃していましたか。(男性21人、女性62人)



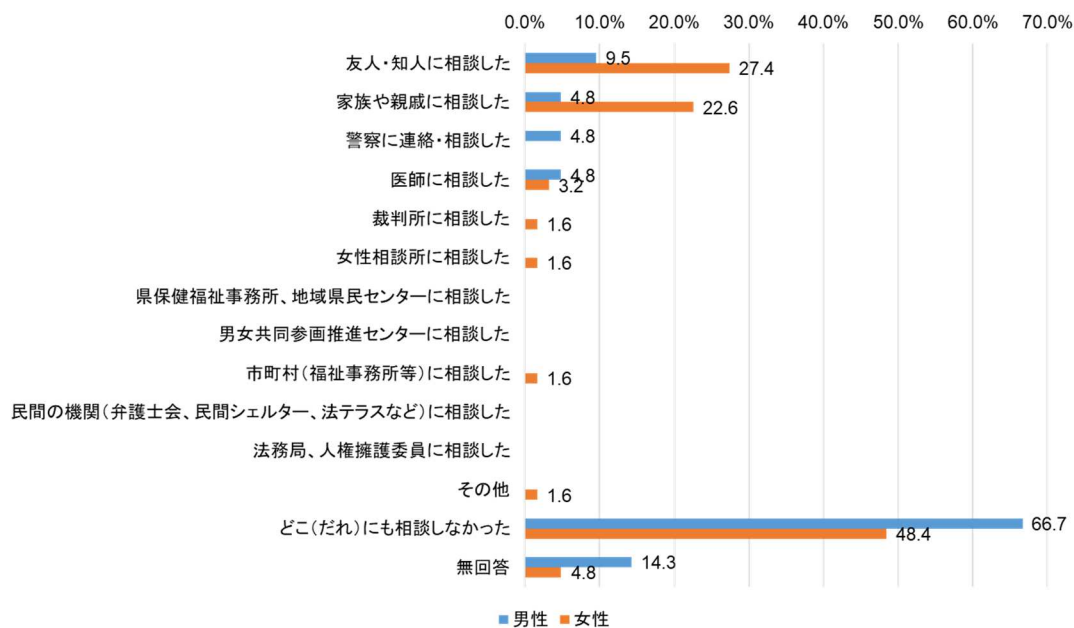
【問17で1つでも「1・2度あった」、「何度もあった」と答えた方のみ(83人)】

問17-3 その相手は、あなたのお子さん(18歳未満)に対して、同じような行為をしたことがありますか。(男性21人、女性62人)



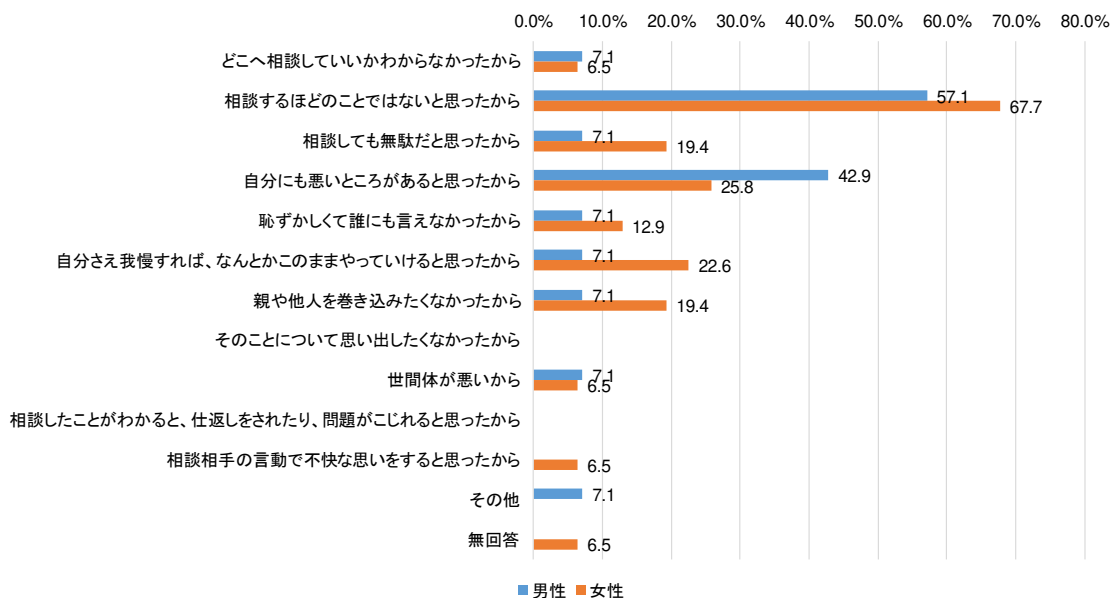
【問17で1つでも「1・2度あった」、「何度もあった」と答えた方のみ(83人)】

問17-4 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(複数回答可)(男性21人、女性62人)

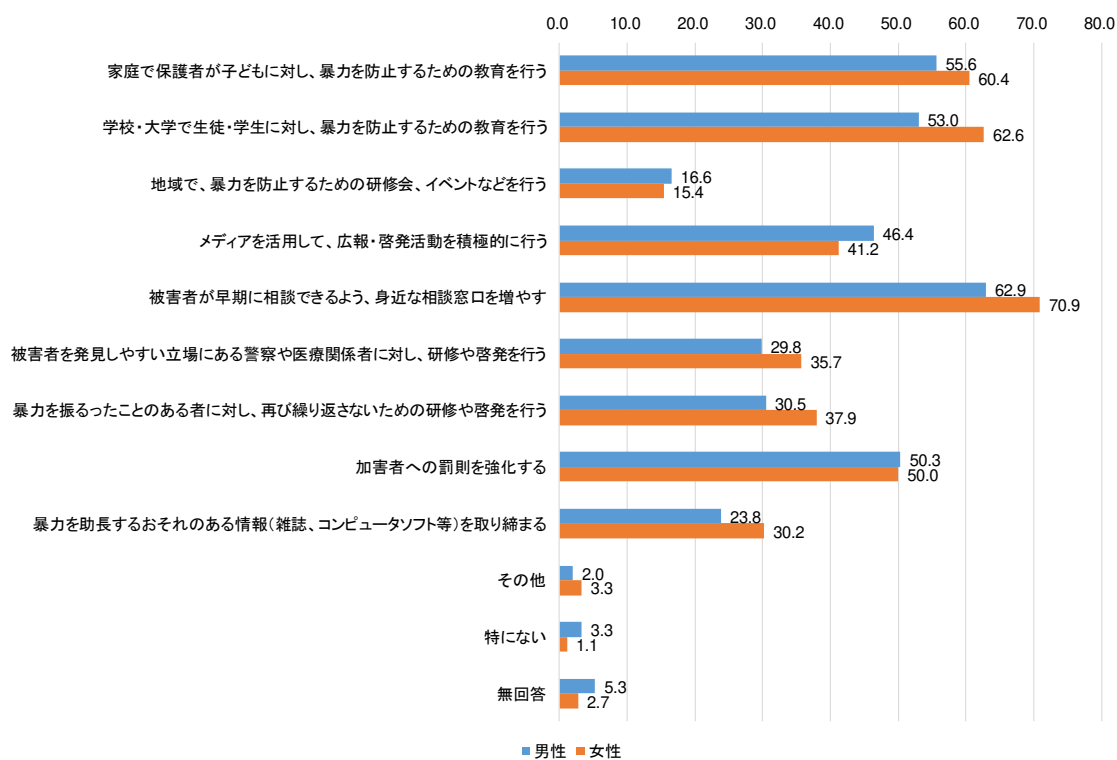


【問17-4で「どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えた方のみ(45人)】

問17-5 どこ(だれ)にも相談しなかった理由は何ですか。(複数回答可)(男性14人、女性31人)



問18 夫婦間や恋人間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。(複数回答可)(男性151人、女性182人)



問19 男性も女性も、個性と能力を発揮して生き生きと暮らしていく社会の実現のために、あなたが日頃考えていらっしゃる事があれば、自由にお書きください。(333人)

- ・個性と能力を発揮するためには結婚しない方がよいです。一人で自由に経済力を持ちながら生活して行きたい。女性が男性社会の中で伸び伸び能力を発揮して地位も向上して男性と対等にやってくるには日本の社会はまだ遅れている。(女性・70歳以上)
- ・男、女にかかわらず人として互いを思いやることが大切なのは。(女性・60歳代)
- ・40歳を過ぎた女性だからこそできる仕事を応援してあげてください。例えば、ハローワークの職業訓練校でFPや販売士・カウンセラー等の資格を取得できるようにだとか。これからは特に地方に流れ込んでくると思うので、これまで東京にいかなくてはつけなかった仕事を山梨(地元)の女性にも活躍できるようにしてあげてほしい。また、山梨県に住んできた女性だからこそできる仕事を応援してあげてください。山梨が発展し、守っていくべきことも大切にしたい社会にしてあげてください。山梨も変わるときが来たのだと思います。(女性・70歳以上)
- ・日頃の生活の中で「女なんだから…」といわれる機会が多い。そういうのがなくなればいいと思う。性によって何かと分けられること、強制されることがなくなるとどんな人でも個性を発揮して生きられると思う。特に山梨は田舎なので、性別による役割分担や性差別の意識が強い。特に、上の年代の方に強くみられると思う。そういった人たちの意識を変える必要がある。(女性・20歳代)
- ・男、女は人として同じであると考えています。1人の人間として。(男性・60歳代)
- ・世代間で協力していく必要がある。人口減少は避けられない時代になっている。特に山梨は年配の方が多いためもっとボランティアで若い世代を助けられたらと思う。朝の旗振りやPTA活動の一部をボランティアの方に協力してもらえたらお互いに生き生きと暮らしていけるのではと思う。また、私はスーパーに勤めていますが、スーパーは人手不足です。年寄りの方や小さい子供を連れて買い物をする女性の手助けボランティアをコロナが落ち着いたときに県が派遣してくれたらいいのにとおもいます。(女性・40歳代)
- ・家庭、職場、地域では相変わらず男性優位の組織運営がなされていて付け加えて、女性が一度出産、育児のため職場、社会を離れると再就職や社会の受け皿の門は厳しく閉ざされる。実は、家事、育児子育てとマルチに働ける女性の能力は男性に「勝るとも劣らない」せっかくその能力を発揮できる場所が閉ざされているのは社会、職場にとって大きな損失となることをまだまだ男性社会は知らない。そこで、すべての人々に意識改革を行うことではあるが、やはり長い社会通念をすぐに破るのは難しいので、まずは小さい時からの男女平等の教育を徹底し、それを職場、社会(行政)においてすべての会議等に参加者の半分程度女性を参加させて意見を聞く場を設けること。男女とも生き生き暮らしていける社会にするには国全体が大きく変わらないといけないのでは。(女性・60歳代)
- ・いろいろな意見を聞いたうえで自分の考えを持ち、かつ、他人の考えを尊重してお互いを許容しながらバランスをとって生活すること。中庸の考えを持つ。(男性・40歳代)

・やさしい人づくり、心豊かな人づくり。具体的にどうするか難しい。住みやすい町づくり。犯罪を野放しにしない。自由をはき違えた社会を修正する必要がある。小さい時からの教育かもしれない。(男性・70歳以上)

・男女ともお互いを理解し尊重して特に良い点が充実できるように努めていきたい。(男性・60歳代)

・子育て中は仕事を探しても断られる場合が多いです。しかたないですが、そこで自分の夢をあきらめるしかないのが女性です。もっと子育て中の女性に優しい社会があればいいと思います。(女性・50歳代)

・相手の人権を尊重して愛情をもって生活する(男性・70歳以上)

・小学校からの教育を男女平等にしてほしい。社会主義の教育には反対です(全体主義)。自由に生活できる、自分から考えて判断できる教育をしてほしい。(女性・70歳以上)

・男女の区別なく人間として尊重する。(人種、生まれた環境、経済的格差、障害等人間を取り巻くものからの差別をなくすための教育・制度を充実させる)国会など国民の代表として選ばれる人たちをそれぞれの代表がまんべんなくいろいろな分野にわたって選ばれるように工夫し必要な制度をつくる。

幼稚園、小学校など小さい時からいろいろな違いのある人たちが一緒に学びお互いの特性を尊重する環境に慣れさせる。気づかせること教育することが重要。(女性・60歳代)

・相互信頼を持つ。持ち続けること。(男性・70歳以上)

・お互いに意見の言える家族構築が基本。

もっと地域活動に女性が参加するよう女性本人の積極性が高まることを願う。(地域周囲の現状を見ての感想です。)(男性・60歳代)

・周囲の人々の意見を気にしすぎて、思っていることも言えずにいる人が多すぎると思います。もっと自分を大切にをはっきり意見を述べてほしいと思います。(女性・70歳以上)

・家族、子供の話聞いてあげられる精神力が必要。自分の行いに責任をもてる毎日。たとえ一人でも相談できる友人をつくる努力をしていくことです。(女性・60歳代)

・夫婦の名前を結婚したから夫の名前にしなくてはならないこと。(女性・50歳代)

・幼少時代の子育てが大切。愛情をたくさん受けて育った人は他人にも優しくできると思う。家庭が基本だから、社会に根をはった生活ができるか否かはよい家庭に恵まれるかにかかっていると感じる。

私共夫婦は共働きを終え、社会貢献として地域のいきいきサロンにかかわっています。夫婦お互いに趣味をもち、互いの時間を尊重し、生活を楽しんでいます。夫婦で力を合わせてきた結果だと思っています。私共の子供を含めた若い方々に私共以上の楽しさ、良さを味わってもらえるような社会になることを願っています。(女性・70歳以上)

・男と女は平等というのは物理的に無理。女性は女性、男性は男性の役割があると思う。お互いに自身の役割をよく考えるべきだと思います。(男性・40歳以上)

- ・村はまだまだ男性社会です。女性も生き生き暮らせる村になるためには受け入れることから始めなければいけないと感じています。(女性・40歳代)
- ・男女平等ではありますが、体力的には無理なことも多々あるかと思います。なにがなんでもと思わず。できないことはやってもらう。「日常」をうまくシェアできればいいかなと思います。(女性・50歳代)
- ・小さな親切、大きなお世話。一人一人が自覚してほしい。感情論でものを言わない教育が必要。障害があってもなくても同じ人の命。生活を理解すること、ネットの規制が必要。(男性・70歳以上)
- ・私の住んでいる所はどちらかというと田舎なので、近所や友人等、横のつながりを大切にしています。また、若い人たちとも交流をもって、邪魔にならない程度のお付き合いも大切に、若い人の考え方も理解できればいいですね。(女性・70歳以上)
- ・平和で安全な社会の中で、健康で生きられる事、穏やかに過ごせることが大切だと感じる。(女性・60歳代)
- ・職場によっては女性のほうが強いので、女性の地位向上みたいな質問は違和感がある。(男性・40歳代)
- ・集団の中には強弱がある。であれば、強いものに対しての教育を幼い時から始めることが必要ではないだろうか。幼稚園や保育園のときから強いものはいるのだから。(男性・70歳以上)
- ・男女平等なんて無理だと思う。カモ男の人には勝てない。仕事も男の人が有利だし、シングルマザーが増えているのも、DVが多かったり、結局男の人には勝てない。収入も男の人が有利。こんな社会ではいくら平等なんて言葉だけで、ダメだと思う。(女性・30歳代)
- ・テレビ・ラジオ・広報等で男女共同参画の講座を拝見しますが、朝気のピュア総合会館は駐車場が狭く、二の足を踏んでしまいます。市内の中心地に催しが開かれることを希望します。(女性・70歳以上)
- ・問17のようなデリケートな質問に正直に答える方はいないのでは？と思う。「あなたまたは友人身近な方など」という主語にしたほうがよいのではないのでしょうか？男女共同参画等の問題も暴力などの問題も小さいころからの教育が本当に重要だと思う。女だから、男だからという考えはもう古い。制服もスカートが嫌ならパンツを選べる学校が山梨にもあってもよいと思う。(女性・60歳代)
- ・SNSをなくす。誹謗中傷が目立つ。取り締まりは無理なのでなくす。(男性・50歳代)
- ・自分が楽しいと思えることをする。(人に迷惑がかからない中で)(女性・60歳代)
- ・私は74歳。バブルの時代に生きた。家族・住宅ローンに追われ、働いた。お金も取れた。家庭では、縦のものを横にもしない、何もしない時代であった。休日には酒にパチンコ。妻は何も言わなかった。皆そうであったからだ。今思えば妻の心境はどうであったか。すまない気持ちだ。自分によく働いた。お金もこまらせなかったがどうしようもない人生だった気がする。ただ妻に感謝だ。75歳の私にはこのアンケート合わないです。(男性・70歳以上)

- ・職場の女性(20代)は、子供を2人出産したのち、職場に復帰しているが、個性と能力を発揮し、生き生きしている。なんでも言い合えることで、仕事にも家庭にも張りが出るものである。なんでも言い合える家庭、職場づくりが必要かな？(男性・60歳代)
- ・男と女は違うので平等じゃなくてもいいと思う。私は、本当は主婦になりたいけど、夫一人の給与だと生活できない。男の人がちゃんと働いて1人でも稼げる世の中になればあと一人子供も欲しいなと思う。私は男女不平等でも構わない。(女性・30歳代)
- ・人は十人十色それぞれの思想、形態があることを学校教育、社会啓発活動を通じて積極的に推進することが大切だと思う。(男性・70歳以上)
- ・(平均年齢60歳、女性閣僚二人が誕生した菅内閣とフィンランドの30代の女性首相と女性閣僚ら5人の写真のある新聞記事を添付して、)日本は100年遅れてる。当分男女平等なんて無理。(男性・50歳代)
- ・年齢や性別を問わずに採用試験などが行われ、採用前にはトライアル期間を設定し、「個性と能力」が正統に評価された上で、本人の意向に沿った雇用形態で働けるのが理想である。(女性・50歳代)
- ・生活が安定していること。ともに相手を尊重し、なんでも相談し合う。コロナによるDVなどを心配している。(男性・70歳以上)
- ・300年続いた幕藩体制～近代国家に移行しても女性の地位は「女は三界に家なし」のことわざを引き継いで私たちは生きている。装いが変わっているだけで本質的な女性への性差別や偏見には変化がない。#me too やウーマンリヴのムーヴメントが起きても、マスコミのからかい半分の高笑いでもとなく終息させるのが常套手段であるようだ。根深い性差別の問題は、女性の告発に終わらせずに男性の問題でもあるという視点をきちんと社会の機構・法律が持つべきである。(女性・70歳以上)
- ・男性女性がお互いを尊重する気持ちを態度で示すこと。老若男女問わず、育った環境などもあり、難しいです。(女性・70歳以上)
- ・誰もが生き生きと暮らせるとは、先の不安がないことだと思う。今の世の中、先の不安がない人は公務員だけだと思う。全世代、医療費、教育費無償で老後は何の心配もないという国策があれば自殺する人もなくなり、みんなが生き生き暮らせるのではないのでしょうか？(女性・50歳代)
- ・男女共同参画意識に対する自己啓発と意識改革(人間尊重と思いやり)(男性・70歳以上)
- ・育児や病気、親の介護でいったん離職しても職場復帰や正規雇用での再就職がしやすい社会になってほしい。女性がもっと活躍できるような環境づくりとチャンスが増えるといいと思います。今でも結婚すると夫の戸籍に入り、夫の苗字になるのが当たり前のようになっています。そして、昔ほどではないですが、長男と結婚すると、「長男の嫁」といわれ、夫の親の世話をするのが嫁の務めという古い考え方の人が少なくありません。いまだに夫婦別姓制度は実現していません。まだまだ日本は男女平等とは言えないと思います。(女性・50歳代)
- ・誰かに助言されて、影響を受けても、物事を判断しているのは最終的には自分自身。男性や女性ととらえるのではなく、1人の人間として、個人として考えていく必要がある。こういったアンケート

トは大事だと思うが、この時点で、男性が、女性が、と質問していることにやる意味があるのかと疑問に感じる。1人の人間として、個人として尊重される社会が男女関係なく大切なんじゃないかなと思う。(男性・20歳代)

・各自努力と意識すること。(女性50歳代)

・若年からの「教育」が最重要だと思う。そのうえでの各個人の意思は尊重します。(男性・60歳代)

・男女は、体にも差があり、子供を産む、産まないなどの根本的な差があります。平等、といえば簡単ですが、元々ある差を考慮すると、ただ条件が同じであれば良いというわけではないと思います。お互いかお互いをいち人間として認めあうというのが全体に広がるのが理想です。(女性・20歳代)

・助産師をしています。患者さんからは産後も含め就労やDV、家族計画など相談を受けます。どんな場所でもいいから相談窓口を増やしてあげてほしいです。皆さん、どこに相談すればいいのかわかっていません。そこが始まりです。(女性・40歳代)

・同じ人間だからねー。家族であれ上司でも部下でもなんでも、人格のある他人。女とか男とか身体的徴の違いしかない。役割も人それぞれ。「であるべき」という概念は捨てて、自分とは別の人間として尊重したらいいのに(女性・30歳代)

・男女平等と言っている間は不平等なのだと思う、社会的な問題はあるが、自分の周りで男だから女だからと言う考えで接していない、女の人も都合のいい時だけ不平等と言いながら、自分に出れない力仕事などは男がやって当たり前とっていたり思いやりのない態度をする事も多いと思う、人への思いやりが色々な差別が生まれない事への取り組みだと思う。(女性・10歳代)

・離婚成立条件の緩和(男性・60歳代)

・性別やその特徴に関わらず「人」としてそれぞれが適正に評価される社会にならないと、互いに協力して暮らしていこうという気持ちすら起きなくなると思う。山梨県が率先して、性差に関わらないPRやジェンダーへの理解を発信することで、自治体の意識も変わり、移住者や定住者が増えることに繋がるのでは。(女性・20歳代)

・相手のことを自分のことのように考える事(男性・30歳代)

・男性は仕事、女性は家庭などの固定観念を持たずに女性もやりたいことをやって良いと思う。1人ではできないので家族や周りの人に協力してもらおう。自分1人で育児家事をしていくのは色々大変だった経験があるので、今は頼れることは頼ってみんなで育児家事をしていくスタイルを実現できるようにしている。(女性・30歳代)

・男だからとか女だからとかいう考えを早くなくして欲しい。(女性・40歳代)

・地域に関してですが、女性が前に出てリーダーシップをとる事がまったくないので意識改革が必要。男性任せで役員は男性ばかり、会社組織も同じなので地域社会も同様かと思う。(男性・60歳代)

・人それぞれの得意な事、良さを活かした仕事ができれば素晴らしいと思うが、現実には難しいところもあると感じる。仕事と子育てについては、仕事のために保育園や実家を頼ってきたがその時

期にしか見られない子の成長の何気ない場面を見逃したと思う。働くことを選んだのは自分だがとても大事な事を体験できずにこれでよかったのかと今も悩んでいる。家事等は分担できれば良いだろうができる時間のある人がやればよいと思う。ただ向き不向きは絶対にあると感じているので何でもかんでも分担すればいいとは思わない。(女性・50歳代)

・昔の人は未だに男は台所に立つものじゃないとか言う。そういう親に育てられた男の子が大人になったら、家の手伝いをするのが恥ずかしいことだと思ってしまう。そういう考えを改めて欲しいと思う。それから、女性が外で一生懸命働いても、男性と同じ給与はもらえない。本当におかしいと思う。だから、妻は夫に家事を手伝ってほしいなど強く言えない。男性と女性の給与は同じにするべきだと思う。(女性・40歳代)

・女性が家庭においても生きがいを持てるような環境を社会がつくる必要がある(男性・40歳代)

・少子化を防ぐためにも、子育ての援助・経済的、施設などの拡充。母子が生活のために再婚して、その夫から子供が虐待され死亡する事件が後を絶たない。母子家庭、シングルマザー、妊婦に手厚く援助することが重要で人口も増える。子供は将来の納税者になるわけだから、子育て援助は国にとっても自治体にとっても利益がある。納税者を育てると思えば予算は大きくとれるはず。一種の投資である。(男性・70歳以上)

・他人を見下さないこと、ばかにしないこと。自分の中にある偏見は中々なくなる。時代によっての価値観は多様化している。どう折り合いをつけていくか考えていくことも必要。(女性・40歳代)

・年齢層が高い人々は若い人に比べて「男性はこうで、女性はこうであるべきだ」という考えが強いと感じることがある。昔よりは比較的、生活様式やジェンダーの捉え方は多様化していると思うので、今の生活様式などに対して考え方を柔軟にすることも大切だと思う。(女性・10歳代)

・男だから、女だから、高齢だから等の差別意識をなくす。(男性・70歳以上)

・「男女共同参画」の名がフェミニズムやポリティカルコネクトネスを言う人達の道具に成り、多様性尊重とは対極の一方的正義を押し付けている。場面次第では逆差別さえ産んでいる。(男性・70歳以上)

・私自体が高齢男性で、具体的な事例にあまり遭遇していないので設問が理解できない部分もあったが、メディアの公平性、SNS等の偏見投稿などの規制が必要だと思う。(男性・70歳以上)

・互いが個々の違いを認め共感や協力が出来ると良いと思います。(女性・50歳代)

・高齢者の人についての考えを述べます。高齢になるにつれて、男女共に社会・地域との接点が少なくなる方が増えると思います。一部の方は積極的に参加して、キャリアを生かして生き生き暮らせるとは思います。その他の方たちが、地域との繋がっていける様に、発信する方法が有ると良いと思います。(男性・50歳代)

・男性と女性とでは体格、脳の構造の違いがあるので、考え方や、能力に違いがあつて当たり前だと思う。役割分担があつていい、出来る人がやれば良い。例えば、仕事ができる男性が仕事を休んで無理に家事、育児をすることは無いし、女性が正社員で働きながら家庭両立が出来っこない、男性でも仕事より、家事が上手な人も、そもそも男女で比べることが差別だと思う。家庭

でも、職場でも、地域でも、やりがいを増やせばよい。女性管理職を増やすことでもないし、男性に育児休業を取らせることでもないと思う、政策がかえって少子化、ひとり親、貧困、を招いていると思う。最近、家族問題が多すぎる、子供の頃から生き生き暮らす為の学校の勉強だけではない教育、介護を受けないような健康管理、それが自分の為、家族の為、周りの人の為と意識を持つように心がけるのが大事だと思う。(女性・40歳代)

・男女間に身体的な差は存在するが、能力ややるべきこと(仕事・家事等)に性別は関係ないと考ええる。また、近年性別は男女のみではなく性の多様性が知られてきており、今後も性別にとらわれない考え方をしていきたい。(女性・20歳代)

・“まずは、男性社会を無くすこと。仕事場では、お茶出し コピーとり。女性だからという考えが無くならない限り生き生きとは暮らせていけない。そもそも男性の変なプライドが、女性の活躍の場を減らしている。”(男性・30歳)

・社会や職場で「男女平等」強調しているが、実際はまだまだ男性優位な状況だと思う。法律等をいくら整備しても、人々の意識を変えないと全く無意味だと思う。(男性・30歳代)

・生活が整っていないと個性能力は発揮できないと思う。女性は子供が出きると育児により制限が多い。平等という言葉はこの社会のなか難しいと思っています。(女性・50歳代)

・男性とか女性とかを意識しないで、今日まで生活できたことを幸せに思います。男性とか女性とかではなく、一人の人間として誇りと尊厳を持って生きていける社会になってほしい。自分がされたくないことを他人にもしないなど一人一人の意識の向上に向けた取り組みが大切だと思います。(男性・60歳代)

・世代間の相互理解と意識改革が必要だと思います。特に団塊の世代たちが時代が変わっているのに、古い時代のイデオロギー(男は仕事女は家庭)を団塊ジュニアに押し付けているように感じます。実務の面では、長時間労働が一番の問題だと思います。全員の労働時間が短くても生きていける社会になれば男女参画社会の実現も近づけると思います。(女性・40歳代)

・男性には男性の女性には女性の性別に伴う与えられた基本的な物はあると思います。男が女になる必要もないし女が男になる必要もない訳で、前提無しに何でも平等！には反対です。まずは義務があつての権利ですから。お互いに相手を敬い、結果を積み上げて行ける社会になれば良いと思います。(男性・60歳代)

・先ず、子供に対する男女平等について道徳、常識を親がきちんと家庭で教育する事が大切。学校でも道徳の時間を復活させ、教育の根本から見直す時だと思います。(男性・60歳代)

・女性に経済力があれば選択の自由が広がる(女性・70歳以上)

・子どもの学校などでは働く主婦が9割を超えており、専業主婦の立場がたいへん居心地の悪いものになっていると感じます。「今時働かないなんて」「なぜ働かないのか？」と同性に言われ傷ついたことも。専業主婦の良いところは、帰宅した子どもの顔を一番に見られることです。くらい顔をして帰ってくると何かあったのかなとわかります。家族全員の衣食住だけでなく、メンタルを含めた健康や学習状況を把握しサポートする大事な仕事のひとつだと考えているのですが、うまく説明できません。一方で、仕事を辞めた当初は社会から取り残されたような気がして、焦る気持ちがあ

りました。今は時間に対する感覚などは、常識はずれなのかもと反省することもしばしば。社会で働く親の姿を見せたいとも思うのですが、家庭生活のクオリティが下がることが自分の中で許せなくて踏み切れないところです。(女性・40歳代)

・自分が親となり、子供が学校に通うようになってから、子供が学校での勉強や体験にいかに関与を受けられるのかを感じ、改めて教育の重要性を痛感している。人は皆平等であるという考えを家庭ではもちろん、学校でも普段からしっかりと教えてほしい。(女性・40歳代)

・男女平等を言い過ぎると、女性の方が男性に負けずと偉そうに振る舞う傾向がある気がします。難しい問題ですが、実際、男性の方が向いている事も、女性の方が向いている事もあるので、認め合って、助け合える社会になれば良いと思います。(女性・40歳代)

・幼少期からの道徳教育と、一番は大人の意識改革が必要だと思う。(女性・50歳代)

・難しい質問のため、どう答えていいかわからないが、個人のやる気を引き出す体制を考えるべき。それには性別を度外視した真のリーダーの登用を望む。(男性・70歳以上)

・意識的に男性と女性の区分をすることは必要無いと思います。教育の仕方により差別は軽減出来ると思います。しかし、古い教育をされてきた方が居なくなるまで文化として残るでしょうが…(男性・50歳代)

・研修等に参加する者は男女共同についての理解がある者が多い。日頃、研修や説明会に参加しない者に「共同参画」の意義・情報が届くような方策が必要と思われる。具体的には「地域の役割」として位置付ける等々。(男性・70歳以上)

・国会議員以下、地方公共団体の議員に女性が少なすぎる。男女平等の意識が進んでいる国のように、法律や条令で議員の男女比を半々に近くするといったのではないかと思う。(男性・60歳代)

・男性、女性関係なく働いた分だけ適切に評価され報酬を貰えること、男性の家事参加が当たり前になることが必要であると思います。(女性・20歳代)

・常に誰にも明るく接して、毎日明るい家庭生活、社会生活を過ごす。(女性・20歳代)

・現代は非正規雇用が多く、安定した雇用状況が無いと思います。企業の都合を優先するのではなく、労働者の権利を守ってくれる社会であることを望みます。(女性・70歳以上)

・得意なことを発揮できる(女性・40歳代)

・幼児の子育て支援は充実しつつあるが、小学校に上がったからの放課後支援が不十分だと感じており、子どもが小学校に上がったなら仕事の継続が困難だと感じる。子どもにとって幸せな形での放課後クラブの質の向上がないと子育て世代の女性の社会進出は難しいと考えている。(女性・40歳代)

・このアンケートは役に立たないと思います。(女性・40歳代)

・まさにこの質問、わざわざ「男性も女性も、」と記載していることに疑問を感じる。BLM デモでもそうだが、「全員」が横並びで存在するはずだから特別に抽象化して取り上げる必要はない。(男性・20歳代)

・女性のため、女性のためのとあまり強調しないで、何事に対しても、誰でもと窓口を広くしておくのが良いかと思います。(女性・60歳代)

・互いの事をリスペクトし、相手の気持ちを理解するように努める。(男性・60歳代)

・仕事量が多く、生活を充実させる時間がなかなか取れないのが現状ですが、本来は、子育て、家庭の充実が全ての基本だと思います。男女の仕事量は同じなのに、家庭での仕事量は必然的に女性の負担が大きいのが現実で、フルタイムで働き、両立していくのは至難の業です。能力を発揮するなど程遠いのが現実です。女性は、どちらも手を抜きたくありません。男性は家庭を顧みないでもいられると思います。そこに大きな性別の差があると言えます。この根本的なことをクリアしない限り、理想的な社会の実現は難しいかと思います。(女性・50歳代)